1/100 scale MASTER GRADE MS-06K ZAKUCANNON

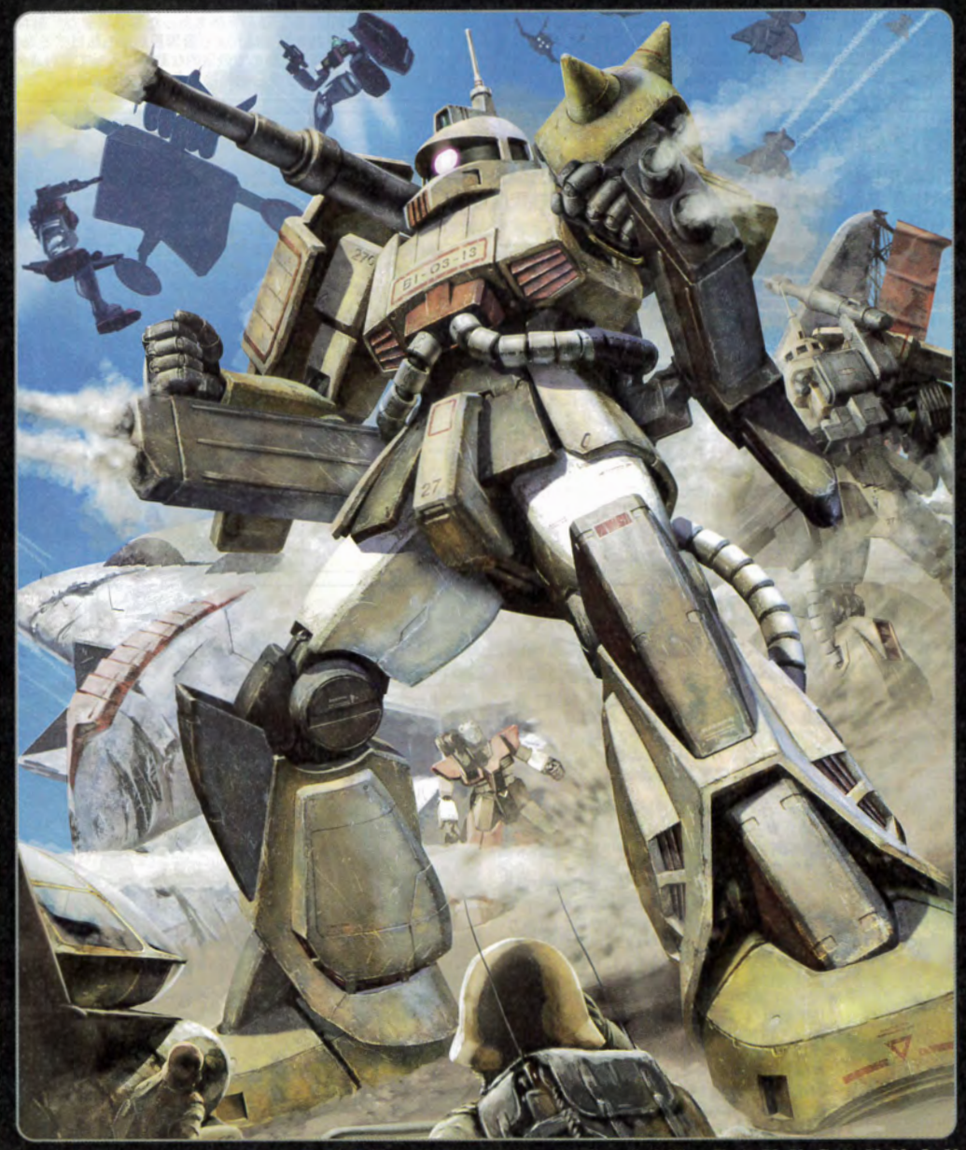
ジオン公国軍
中距離支援型モビルスーツ
MS-06K ザクキャノン
1/100スケール マスターグレードモデル

MS-06K ZAKUCANNON

©創通・サンライズ

MS-06K ZAKUCANNON

PRINCIPALITY OF ZEON MIDDLE-RANGE SUPPORT MOBILE SUIT



1/100 scale MASTER GRADE MS-06K ZAKUCANNON

ジオン公国軍
中距離支援型モビルスーツ
MS-06K ザクキャノン
1/100スケール マスターグレードモデル

BANDAI 2008 MADE IN JAPAN

※写真の完成品は、塗装してあります。

0155521

ジオン公国MS開発史

地球侵攻作戦の発動

緒戦において地球連邦軍を圧倒したジオン公国軍は、電撃的な殲滅戦を展開することで早期決着を企図していた。しかし連邦政府は徹底抗戦を選択。長期戦を余儀なくされた公国軍は地球侵攻（降下）作戦を敢行する。

U.C.（宇宙世紀）0079年1月31日に締結された南極条約は、ジオン公国の意図に反して単なる戦時条約と化してしまった。国力の差を自覚していたジオン公国は、当初から一ヶ月以内の短期決戦を想定していたが、レビル将軍の"奇跡の生還"をはじめとする情勢の変転によって、戦争の長期化が避けられない状況となってしまった。ただし公国軍は、このような事態を想定していなかった訳ではない。二度にわたるブリティッシュ作戦の失敗によって、連邦軍の本拠地ジャブローの殲滅を果たせないままであれば、政治的目標に見合う戦果を挙げた事にはならないからだ。実際、公国軍はルウム戦役直後から、事実上の降服勧告に等しい休戦条約締結の打診と並行して、地球侵攻に備えた作戦の立案と装備の開発を行っていたのである。0076年12月の時点で、既に地球侵攻に伴う装備や局地戦用MSの開発に着手していた公国軍は、ルウム戦役直後からその規模を拡充し、実際的な運用法も含めて検討を始めていた。現実問題として、連邦政府が降伏を受け入れた場合であっても、戦術レベルでの制圧や駐留に局地戦用MSの開発が不可欠である事は自明だったからだ。0079年2月1日。南極条約締結の翌日、公国軍は"地球方面軍"の設立を公表し、2月7日には"地球侵攻作戦"を開始する。この短期間での戦闘再開には、レビル将軍による「ジオンに兵なし」とするメッセージに対抗するという側面もあった。宣戦布告から現在に至るジオン公国の勝利は、しょせん辛勝であった事を喝破した敵将レビルの指摘が真実であったが故に、それを敵国は元より自国民からも払拭する必要があったからだ。すなわち"地球侵攻作戦"は、極めて政治的な動機によって実行されたのである。無論、鉱物資源などの獲得という実利的側面もあったことは言うまでもない。

局地戦におけるMSの運用

独立戦争を挑むにあたり、公国軍はMSを戦術の中軸に据えていた。連邦軍は後に、既存の兵力にMSを組み込んで用兵を行うが、公国軍は戦略レベルでMSを中心とした作戦行動をとるほどMSに依存していたとも言える。

重力下におけるMSの適応と拡散は、"MS-06"の基礎設計にすでに盛り込まれていた。地上部隊が作戦行動を行う際、部隊をスムーズに展開させるためには対空防御が必要であることは言うまでもない。そこで、06J型にオプションで対空砲を装備するというプランが提案された。これは当初、"対空砲装備型ザク"として立案され、それに準じた資料や記録なども残っているものの、重量バランスの面などが問題となった。また、当時はMSそのものの移動速度を向上させたり、地域によって異なる地球環境への適応そのものが検討されていた時期でもあったため、事実上ペンディングされていたのである。いわゆるキャノンタイプは、MS-07 グフ系やMS-09ドム系などのように進化・発展する事は無かったのだ。これには、連邦軍による積極的な航空戦力の運用が無かった事や、輸送機や偵察機を相手にする程度であれば、MSによる狙撃、あるいは通常の対空砲などの装備で事足りたと言う事情もあったようだ。つまり、MSに対空砲を装備させることは喫緊の課題ではなかったのである。ちなみに、この「対空砲装備型ザク」はあくまで「地球侵攻作戦」展開時に想定された仕様であるため、厳密には「MS-06K ザク・キャノン」とは別の機体である。そういった状況が変わったのは、局地戦用MSの開発を担当していたキャリフォルニア・ベースに、RX-77 ガンキャノンと思しき連邦軍のキャノンタイプMSの情報がもたらされてからであった。連邦軍は、キャノンタイプのMSを白兵戦用MSの支援機として開発し、実際に運用していた。かくして、ザク・キャノンは、J型のオプション装備型ではなくキャノンタイプMSとして、対空防御ではなく対MS戦闘時の支援機として開発が進められることとなった。試作段階では型式番号として"MS-06J-12"が与えられていたが、キャノンパックの装備や、07系に相当する機動力を備える脚部ユニットなどが基本仕様として新たに盛り込まれたため、後にMS-06Kへと変更された。MS-06Kの実質的な開発開始は0079年の9月中旬以降であり、水陸両用MSの開発はすでにほぼ完了していた。さらに、局地戦用MSの開発に至っては、MS-09ドム系の、更にそのバリエーションを模索している時期であった。"支援用MS"というカテゴリー自体、公国軍には存在しなかったコンセプトである。これを急遽開発する動機となるほど、連邦製のMS群のスペックが公国軍にとって脅威であったということだろう。

MS-06J

MS-06K ザク・キャノン

MS-06K ザク・キャノンは、強力な火力や重量の増加による機動性の低下などの問題があったことから大量生産には至っていない。そんな中、機体のスペックをフルに活かすことで著しい戦果を挙げたパイロットもいた。

MS-06K ザク・キャノンは、元々J型ザクにオプションで対空兵器を装備することが想定されていたが、実際的なニーズが確定せず開発は凍結されていた。ところが、連邦製のMS、RX-77 ガンキャノンが出現した事により、その対抗上、MS支援機として開発されることとなった。時期的には、すでにドム系の量産が始まっていた時期にも関わらずザクベースとされた。これは、生産コストやインターフェイス、蓄積されたノウハウなどを考慮した結果であるとされる。

改修にあたっては、単に右肩に180mmキャノンを装備しただけでなく、モノアイを全周式に改め、さらに頭頂部に補助カメラが増設されたほか、口吻部のダクトには開発中の機体の部材が流用されている。さらに脚部にはMS-07系と同様に、補助推進器が装備されることとなった。180mmキャノンは基本的に火薬式で、通常型のランドセルと同じラッチに装着できるようになっている。さらに、補助兵装として開発されたビッグガンを腰部後方のラッチに据え付けることも可能である。これらの兵装は、緊急時にはコクピットからの操作でパージする事が可能であり、その場合の本機のスペックはJ型ザクとほぼ同等のものとなる。もっとも、本機が丸腰になるような状況は白兵戦レベルの戦闘であり、支援用MSとして想定されていた本機は中距離、あるいは地形的に敵軍との間に遮蔽物が存在する場合において運用されるものであって、弾丸の補充やビッグガンのマガジン交換などは、他のMSの手を借りて行うものとされていた。

試作1号機は当初、北米中部あるいは西アジア方面でのテスト運用が想定されていたため、機体色はサンドカラーをデフォルトとしていたが、予定変更に伴いダークグレー系の標準的なロービジリティ迷彩とされた。他の機体には1号機同様、サンドカラーやグレー系の標準迷彩のほか、森林地帯用のダークグリーン系の迷彩を施された機体もあったようだ。また、量産化検討用の機体として、一般的なMS-06Jと同じグリーン系の塗装を施されたものもあった。本機は本格的に量産される事は無く、試作された9機はすべて北米のキャリフォルニア・ベースを拠点とする部隊によって運用されたとする説が一般的だったが、東南アジアにおいて展開していたコジマ大隊所属部隊による目撃情報などの資料も存在するため、少なくとも当該地域へは複数機が供給されていたと見ることができる。さらに、その機体の細部の仕様がキャリフォルニア・ベース近傍で実戦投入された機体群とは異なる事も確認されているため、更に別の生産拠点が存在した可能性も否定できない。ちなみに本機は、一年戦争時、ジェネレーターの改良によってビーム砲搭載機への仕様変更も検討されていたらしかったが、ザク自体の基本設計が限界に達していたため、同様のコンセプトはMS-14Cへ受け継がれたと見られている。ビーム砲装備型のMS-06Kが実際に試作されたどうかは定かではない。

ちなみに、ジオン本国で大いに喧伝された本機を駆る"エースパイロット"として、イアン・グレーデンとアルフレディーノ・ラムが知られている。イアン・グレーデンは軍人にしては理論家で、先読みの効く人物だったとされており、NT（ニュータイプ）の素養も取り沙汰されたようだ。開戦前後はMS訓練部隊で重力下におけるMS戦闘を教導していた。0079年3月の部隊改変で地球攻撃軍第二地上機動師団に配属され、キャリフォルニア・ベース攻略戦に参加して以来、同基地の守備隊員として活躍した。MS-06Kによる部隊編成時に、それまでの戦果が評価され中尉に昇進。同部隊の中隊長となる。終戦までの戦果は航空機×34、車両×71、MS×2であったという。フロリダ半島のケープカナベラル基地で終戦を迎え、連邦軍による拘束の後、翌年10月に釈放されてジオン共和国に帰国している。彼の駆るザク・キャノンは、補助カメラケースの両側に装備していた二枚のブレードアンテナが兎の耳を連想させたため"ラビットタイプ"と呼ばれていた。もう一方のアルフレディーノ・ラムは、地球攻撃軍キャリフォルニア・ベース直属支援戦闘MS中隊所属の少尉で、グレーデン中尉のザク・キャノン中隊に所属。対地支援の砲撃を得意とし、命中率も高かったようだが、NTではなかったとされる。グレーデン中尉同様、フロリダで終戦を迎え、後にサイド3へ帰国している。

MS開発系譜 ーMSは特化から細分化へー

MS-06 ザクⅡは、空間戦闘や地上戦、局地戦、果ては水中用などに特化されていく中で、驚異的な適応能力を見せた。それは、戦略レベルの目的に応じて細分化の道を辿ったと言い換える事もできる。しかし、連邦軍の本格的な反攻が始まる以前より、ザクはすでに限界に達していた。それぞれの環境において、公国軍のMSは"ザクの次"へと移行しつつあった。ことにMS-06R 高機動型ザクは試行錯誤の途上にあって、暫定措置とは言え、主力機の座をMS-09R リック・ドムに奪われていた。MS-06K ザク・キャノンは、ザク直系のバリエーションとしては最後期に開発された機体だが、連邦製MSに対抗するMSとして開発された初めての機体のひとつでもある。

ZEONIC MS-06 Line Development genealogy

スペック

MS-06K ザク・キャノンのスペックは、いわゆる"裸特性"としては基本的にMS-06J ザクⅡ（いわゆる地上用ザク／J型ザク）と同等である。ただし、オーバーホール後の機体更新時の仕様として、ランドセルをJ型のデフォルト仕様に戻し、脚部をMS-07タイプの推進システムを内蔵したものに換装したうえで、標準兵装状態とした機体の機動性テストが行われた。テスト結果は良好だったものの、コストなどの問題から、J型からさらに改造するような研究に結び付く事はなく、単にMS-06J型との互換性を確保する程度の処置にとどまった。また、支援用MSとされながら、防空任務に投入される事も多く、ジャブロー攻略戦後の比較的大きな戦闘では、イアン・グレーデン中尉の"ラビットタイプ"が連邦軍輸送中隊のミデア輸送機をはじめ多数の連邦軍航空機を撃墜している。この戦闘でグレーデン中尉は、本機に乗ってからの撃墜記録を30機に延ばし、ジオン公国軍最高司令部から報償を授与されている。ただし、公国側はこの戦闘で連邦軍の輸送中隊を全滅させるものの、06J型1機撃破、06K型2機が被弾、中破されている。

主な武装

ザク・キャノンが装備する武装は、ほぼ全てがランドセルに集約されている。左側にスモークディスチャージャーを装備するランドセルの構造のほとんどは、180mmキャノンの砲撃、管制、給弾システムに占有されている。また、照準システムとのリンケージのため、コクピット全面のパネルと動力パイプの配置が変更されている。狙撃の際に右側面の視界が悪化するため、右腕にはシールドを装備している。さらに、ランドセルの下部には「ビッグガン」と呼ばれるミサイルポッド／ランチャーを追加で装着する事も可能で、運用条件に幅を持たせている。この装備は通常時にはバレルを後方に向けていて、その状態であれば、さらに手持ちの兵装を使用する事も可能であったといわれている。ランドセルの180mmキャノンとビッグガンは、弾薬庫内の弾丸を撃ち尽くすとデッドウェイト化するため、コクピットからの操作によって排除する事も可能であったが、さらに緊急時には連結部を爆砕して取り除くといった対応も可能であった。

0079年10月下旬以降に実施された一連の連邦軍によるキャリフォルニア・ベース爆撃作戦では、デブ・ロック重爆撃機×12、フライマンタ戦闘爆撃機×7、マング一ス攻撃機×11、フラットマウス偵察機×1、の損害を出している。公国軍は、MS×10、ガウ攻撃空母×1、その他航空機×19、車両×21とされる。ザク・キャノンが挙げた戦果がその内のどれ程なのは不明だが、グレーデン中尉やラム少尉らの乗機が、それぞれ3機以上の連邦軍機を撃墜した事は確認されている。本機は、一年戦争終結後に何機かが連邦軍に接収され、単なる弾薬格納庫となっていたランドセルや各部のスラスターの換装など、空間戦闘用に改装を受けた機体がU.C.0087年前後まで運用された。

⚠ 注　意

必ずお読みください

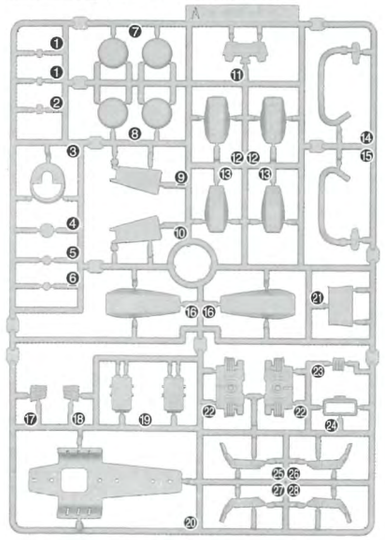
- この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

〈組み立てる時の注意〉

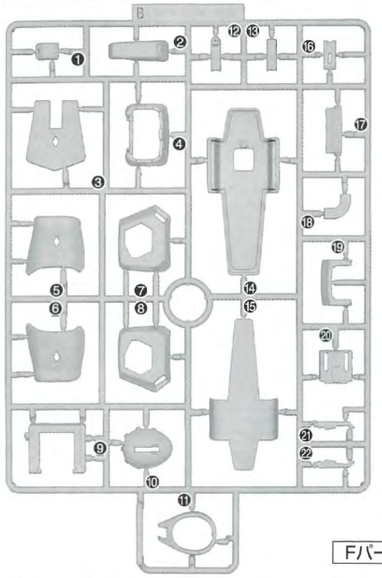
- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

パーツリスト　（✕印は使用しないパーツです。）

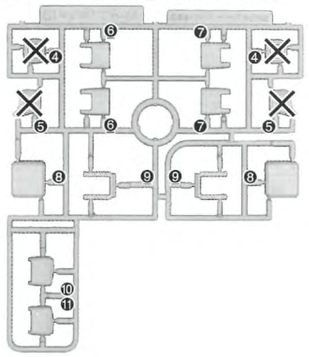
Aパーツ（スチロール樹脂：PS）



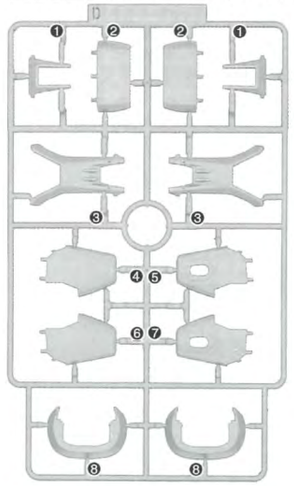
Bパーツ（スチロール樹脂：PS）



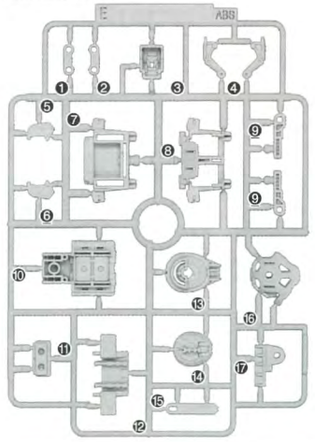
Cパーツ（スチロール樹脂：PS）



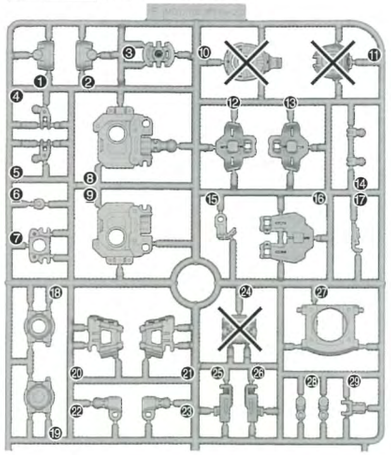
Dパーツ（スチロール樹脂：PS）



Eパーツ（ABS樹脂：ABS）
アンダーゲート有り



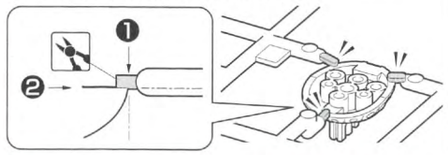
Fパーツ（ABS樹脂：ABS）

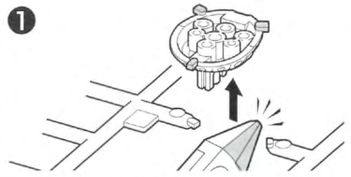


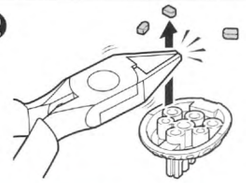
アンダーゲートの切り方

▶アンダーゲートマークの付いた部品は、下の図のようにキレイに切り取ります。

※E⑭は下の図のように切り取ります。

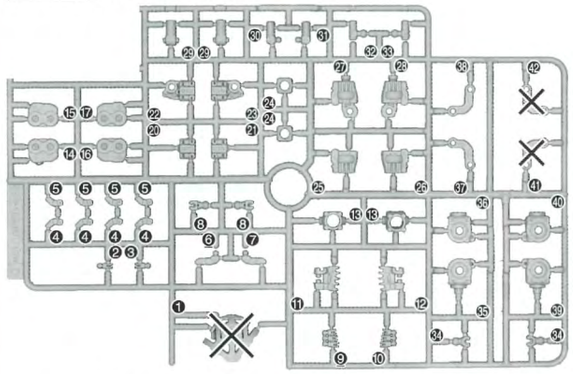




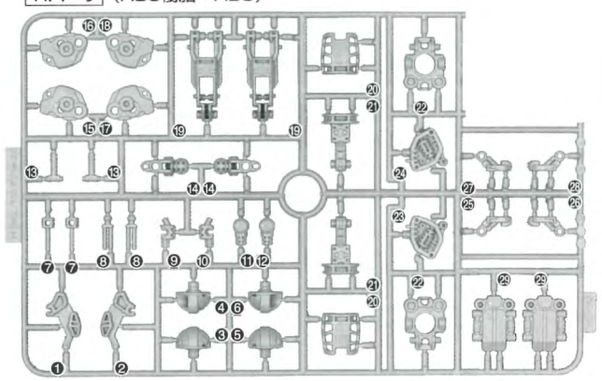


※組立図中の記号説明　切り取る部分

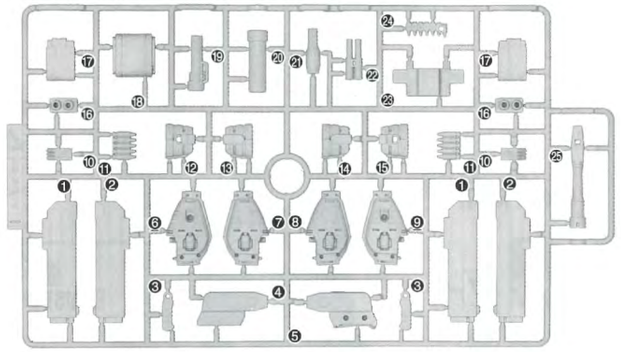
Gパーツ（ABS樹脂：ABS）



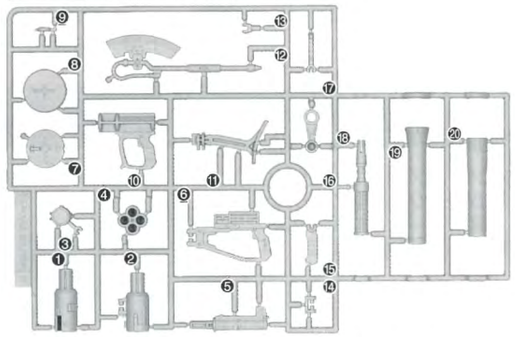
Hパーツ（ABS樹脂：ABS）



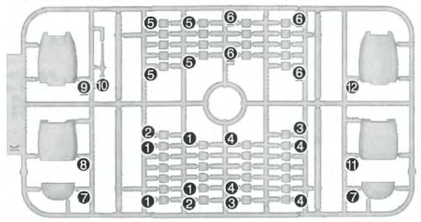
Iパーツ（スチロール樹脂：PS）



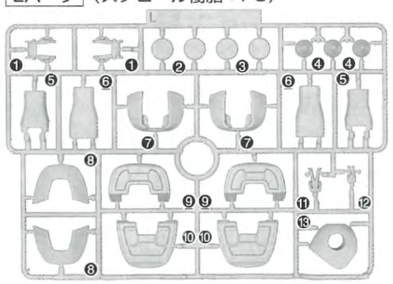
Jパーツ（スチロール樹脂：PS）



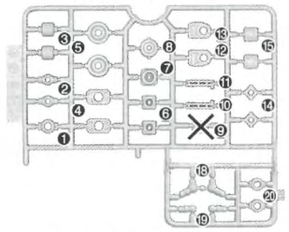
Kパーツ（スチロール樹脂：PS）



Lパーツ（スチロール樹脂：PS）



〈PC-200B〉
（ポリエチレン：PE）

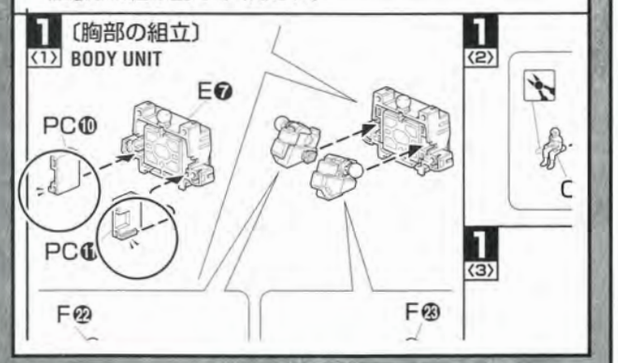


マーキングシール……1枚
ガンダムデカール……1枚
パイプスプリング……2本

組み立て前の基本説明

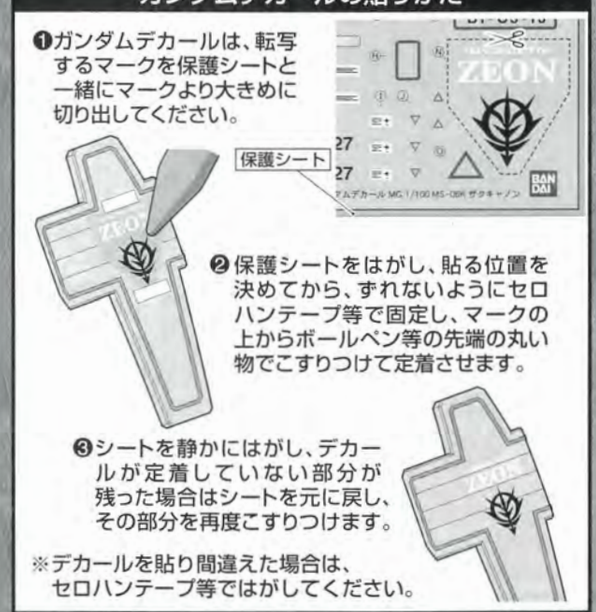
部品の向きに注意してください

※組み立て図中に!のついている部品は、形状や向きに注意して組み立ててください。



ガンダムデカールの貼りかた

❶ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。

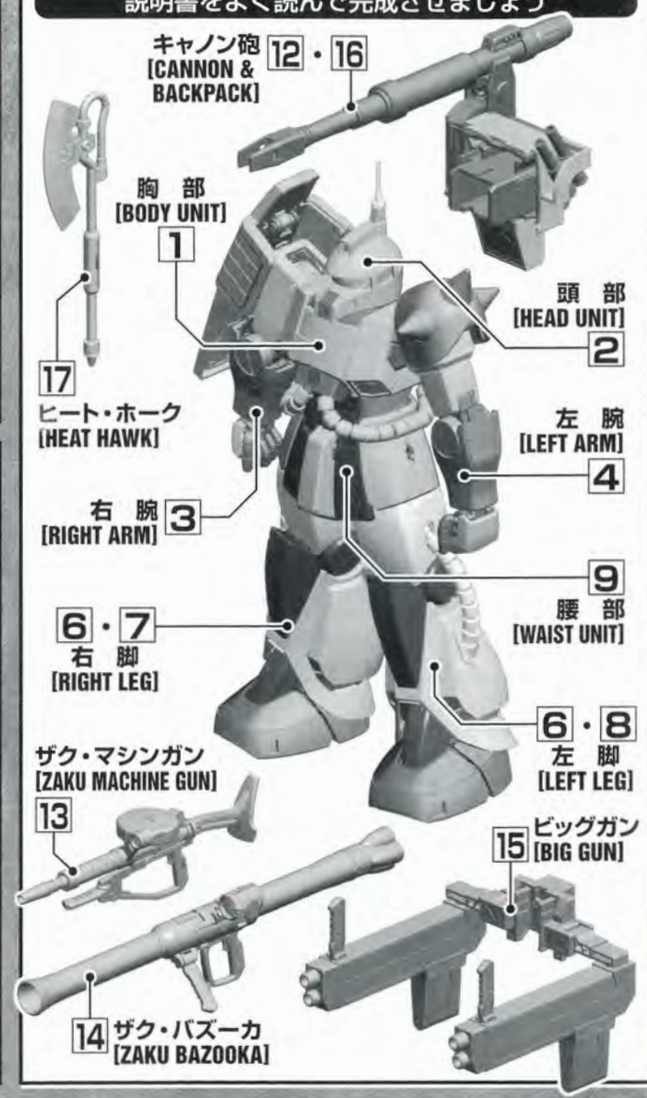


❷保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、ずれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。

❸シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度こすりつけます。

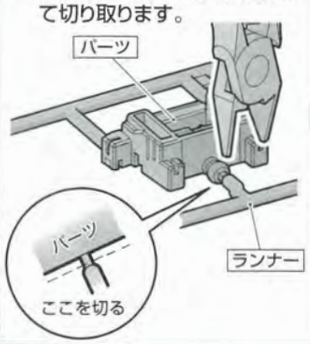
※デカールを貼り間違えた場合は、セロハンテープ等ではがしてください。

説明書をよく読んで完成させましょう

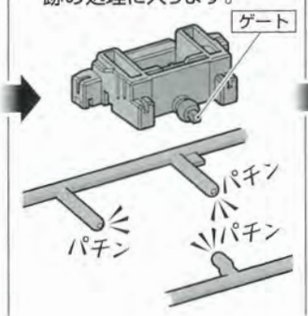


パーツの切り取りかた

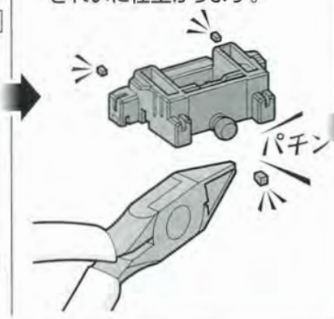
❶まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。

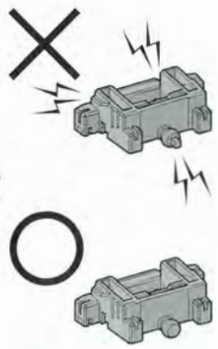


❷パーツを切り離して持ちやすくなったところでゲート跡の処理に入ります。



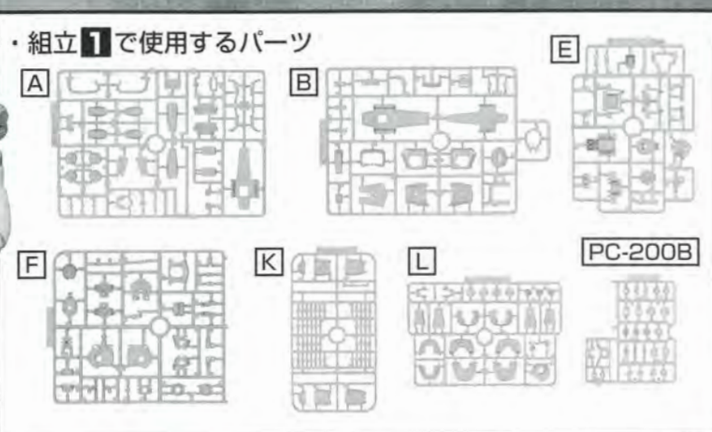
❸ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。

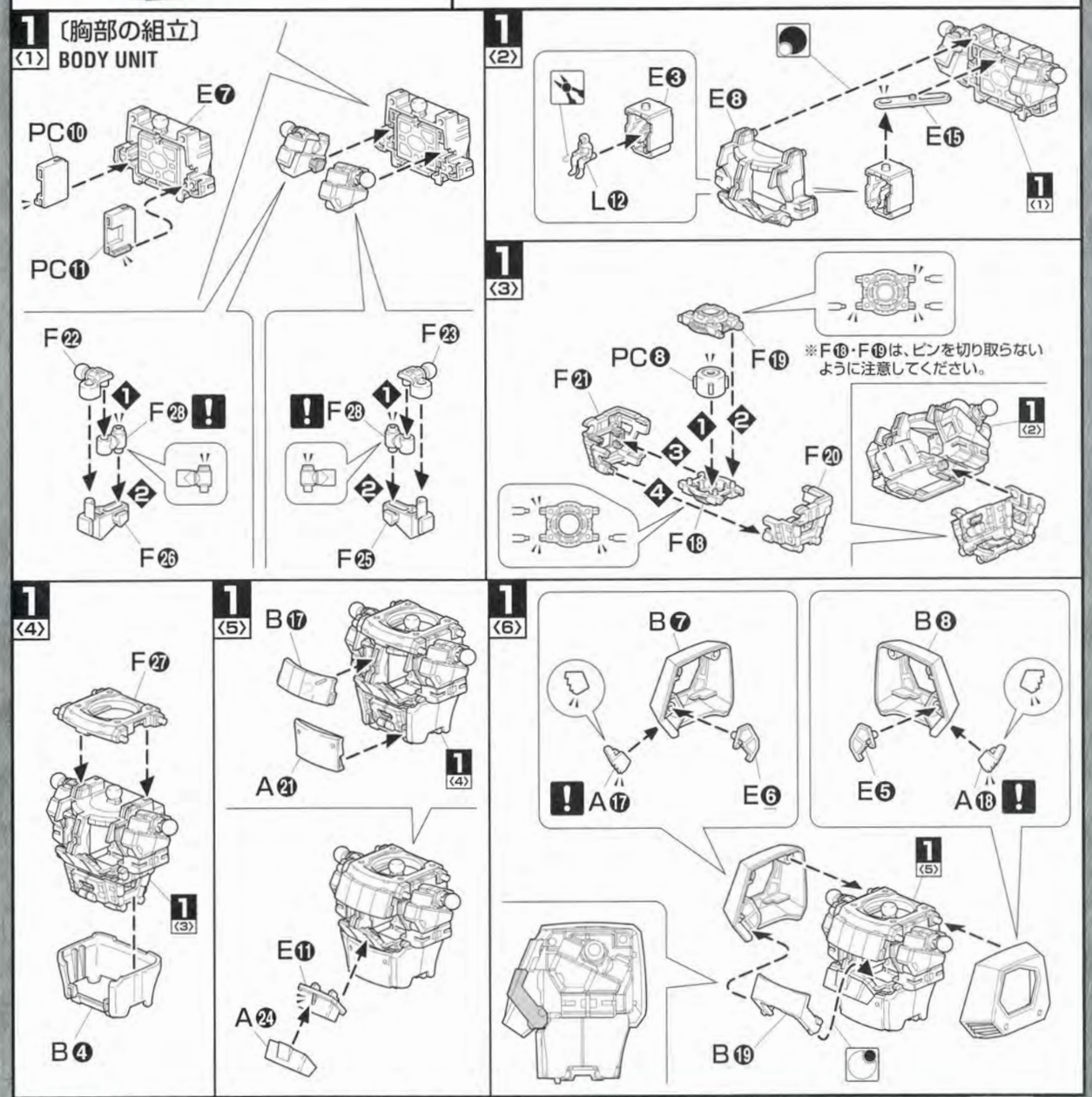




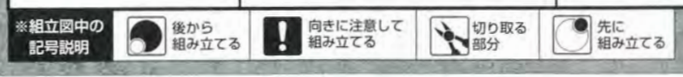
1 BODY UNIT

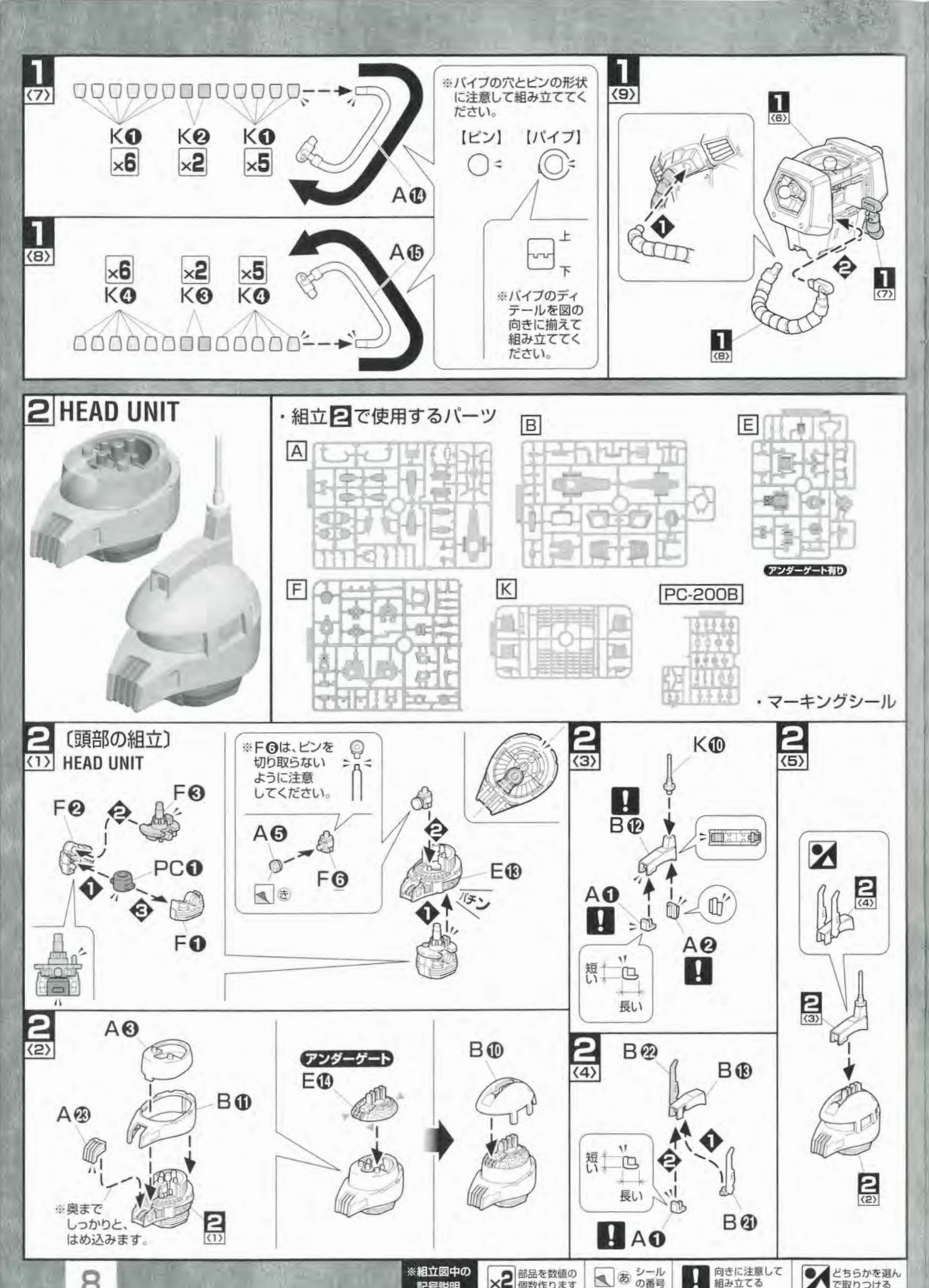
・組立1で使用するパーツ

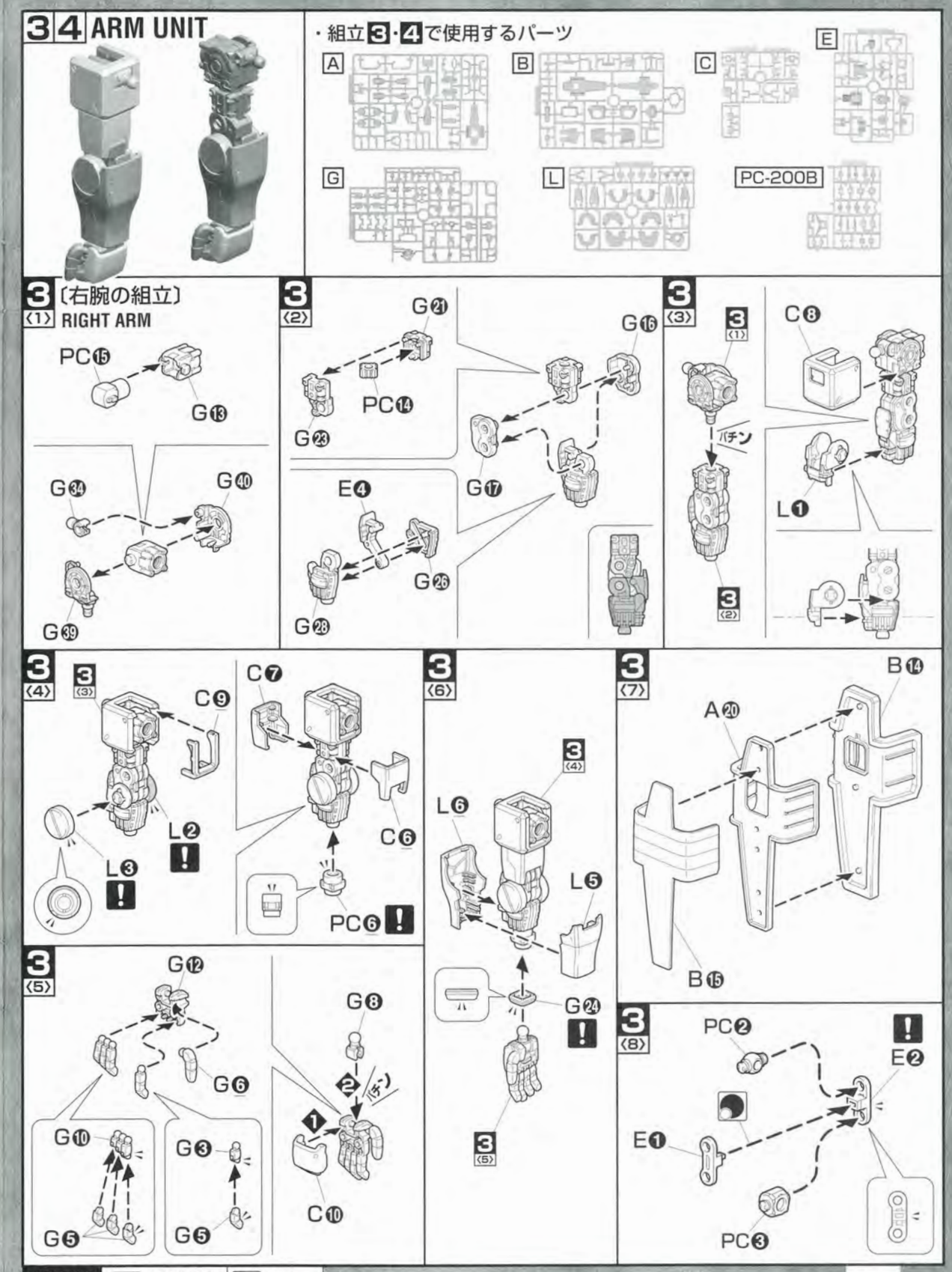




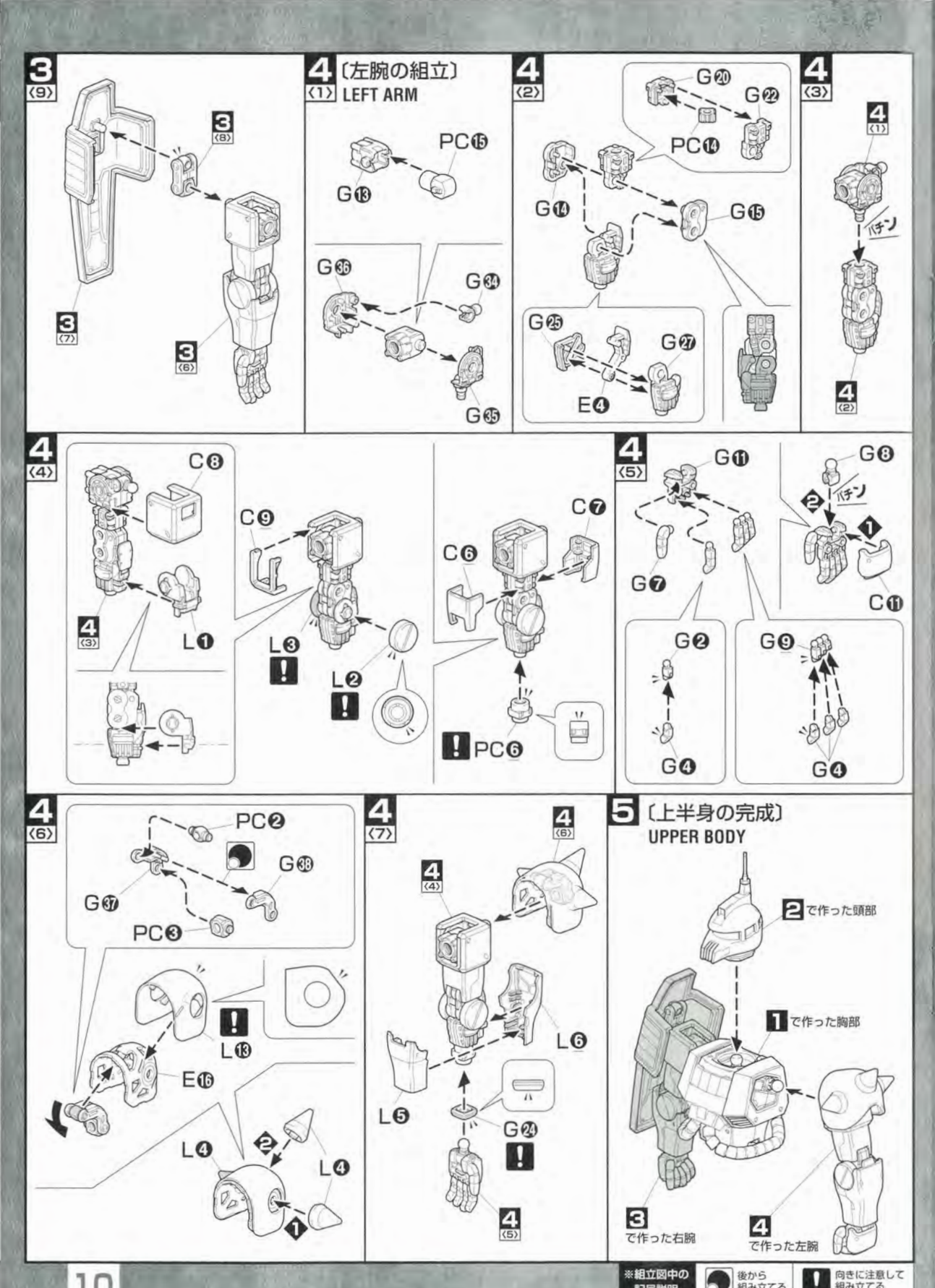
※組立図中の記号説明

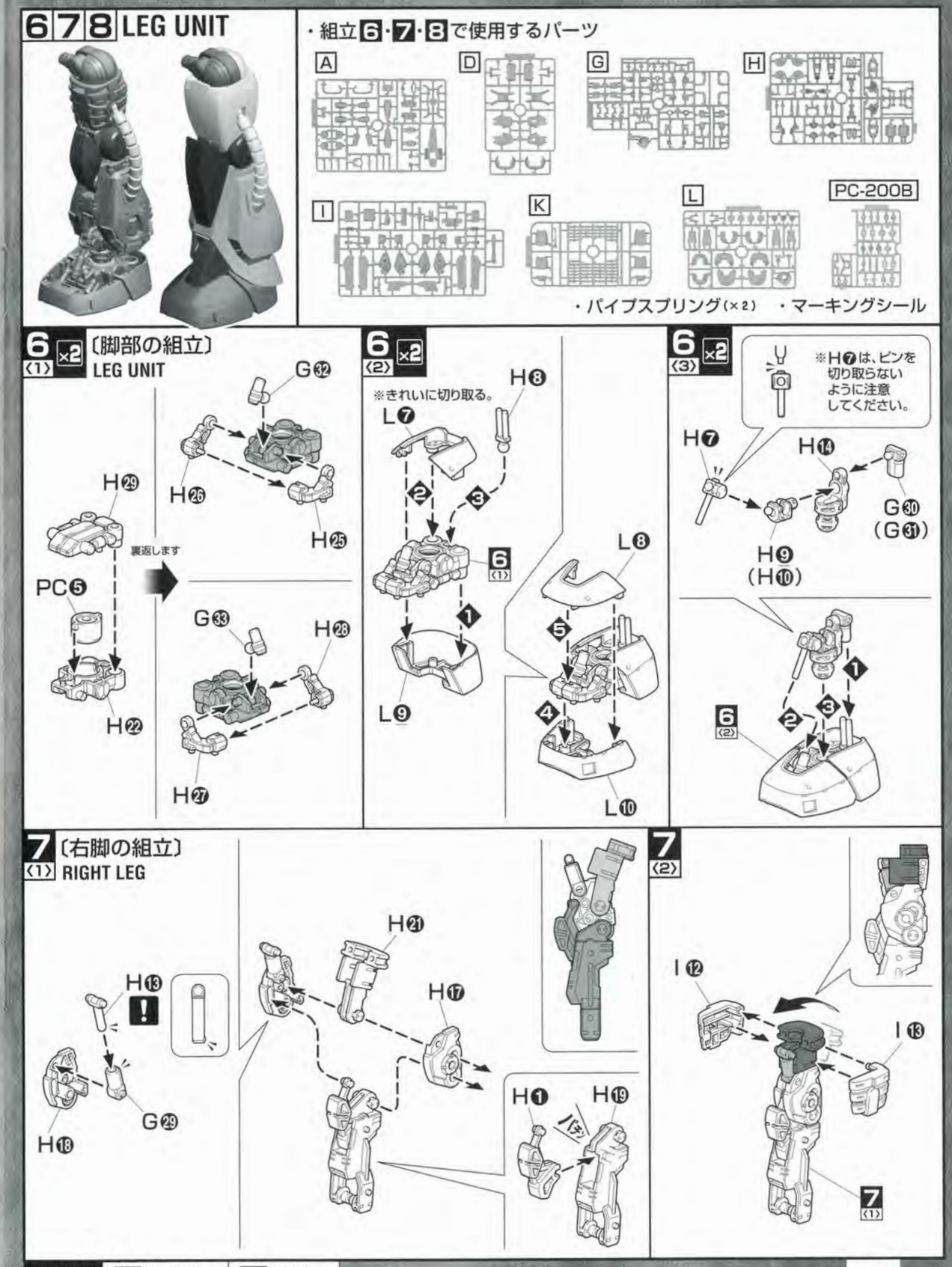






※組立図中の記号説明
×2 部品を数値の個数作ります
あ シールの番号
! 向きに注意して組み立てる
どちらかを選んで取りつける
後から組み立てる


3 〈9〉
3 〈8〉
3 〈7〉
3 〈6〉
4 〈1〉 〔左腕の組立〕 LEFT ARM
PC⑮
G⑬
G㊱
G㊹
G㊺
4 〈2〉
G⑳
G㉒
PC⑭
G⑭
G⑮
G㉕
G㉗
E④
4 〈3〉
4 〈1〉
パチン
4 〈2〉
4 〈4〉
C⑧
C⑨
C⑥
C⑦
L①
L③
L②
PC⑥
4 〈3〉
4 〈5〉
G⑪
G⑦
G②
G④
G⑧
パチン
C⑪
G⑨
G④
4 〈6〉
PC②
G㊳
G㊲
PC③
L⑬
E⑯
L④
L④
4 〈7〉
4 〈6〉
4 〈4〉
L⑥
L⑤
G㉔
4 〈5〉
5 〔上半身の完成〕 UPPER BODY
2 で作った頭部
1 で作った胸部
3 で作った右腕
4 で作った左腕
※組立図中の記号説明
後から組み立てる
向きに注意して組み立てる


6 7 8 LEG UNIT
・組立6・7・8で使用するパーツ
A
D
G
H
I
K
L
PC-200B
・パイプスプリング(×2)
・マーキングシール
6 ×2 〈1〉 〔脚部の組立〕 LEG UNIT
G㉜
H㉖
H㉕
H㉙
裏返します
PC⑤
H㉒
G㉝
H㉘
H㉗
6 ×2 〈2〉
※きれいに切り取る。
H⑧
L⑦
6 〈1〉
L⑧
L⑨
L⑩
6 ×2 〈3〉
※H⑦は、ピンを切り取らないように注意してください。
H⑦
H⑭
G㉚ (G㉛)
H⑨ (H⑩)
6 〈2〉
7 〈1〉 〔右脚の組立〕 RIGHT LEG
H⑬
G㉙
H⑱
H㉑
H⑰
H①
H⑲
パチ
7 〈2〉
I⑫
I⑬
7 〈1〉
※組立図中の記号説明
向きに注意して組み立てる
×2 部品を数値の個数作ります

MS Tracks in U.C.0079（一年戦争の軌跡）

ザク・キャノン 撃つ!!

U.C.0079年10月中旬～11月初旬。地球連邦軍は、オデッサ作戦に先行する陽動作戦の一環として、地球上のジオン公国軍に対する陽動作戦を展開していた。北米大陸における一連の戦闘において、MS-06K ザク・キャノンの存在が初めて明らかとなった。当時、北米大陸に展開する公国軍は、地球方面軍司令ガルマ・ザビの戦死以降の指揮系統の混乱を収拾できておらず、続くオデッサでの敗北によって地上戦力が瓦解しつつあった。にも関わらず、否、だからこそ公国軍は、同年11月30日、起死回生の第二次ジャブロー侵攻作戦を展開する。この作戦のためキャリフォルニア・ベースの戦力が大量に動員されたが、ジャブロー攻略は叶わず部隊のほとんどが潰走した。これを機と見た連邦軍は、同年12月5日、アフリカ方面の部隊と連携して公国軍掃討作戦を展開する。北米大陸において連邦軍は、コースト山脈東部からフロリダ半島へ向かう南下ルートと、中央アメリカの東シエラマドレ山脈からキャリフォルニア・ベースに至る北上ルートで挟撃を図る。この戦闘はおよそ12月中旬まで散発的に続き、連邦軍はついにキャリフォルニア・ベース奪還に成功する。ザク・キャノンを擁する部隊は、フロリダ半島まで後退した時点で終戦を迎えている。一連の戦闘においてザク・キャノンは、相当数のMSや航空機を撃墜していることは明らかであるものの、その具体的な戦果についての詳細は不明である。

PAINTING〔塗装〕

※よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。
※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
●ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はお勧めできません。
※カラー配合は参考値であり、写真とカラーガイドの色は異なる場合があります。

MS-06K ザクキャノン 指定色

- 頭、胸などの塗装色 はだ色(65%)+ホワイト(30%)+ニュートラルグレー(5%)
- 動力パイプなどの塗装色 ホワイト(90%)+イエロー(5%)+ブラウン(5%)+ブラック(少量)
- スパイクアーマーなどの塗装色 サンディイエロー(65%)+ホワイト(30%)+ブラック(5%)
- フロントアーマーなどの塗装色 カーキグリーン(60%)+ブラック(35%)+ブラウン(5%)
- インテークなどの塗装色 シャインレッド(65%)+ホワイト(25%)+イエロー(10%)+ブラック(少量)
- ビッグガンなどの塗装色 黒鉄色(100%)
- 武器などの塗装色 ニュートラルグレー(85%)+ブラック(15%)
- ヒート・ホーク ブレードの塗装色 イエロー(60%)+ホワイト(30%)+オレンジ(10%)
- ヒート・ホークの塗装色 パープル(55%)+ホワイト(30%)+ニュートラルグレー(15%)
- モノアイなどの塗装色 蛍光ピンク(100%)
- 額センサーの塗装色 クリアブルー(100%)

パイロット

パイロットA　パイロットB

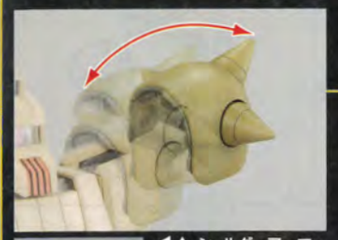
- パイロット本体の塗装色 ホワイト(55%)+イエローグリーン(35%)+ブラック(10%)
- ヘルメットなどの塗装色 ホワイト(90%)+イエローグリーン(5%)+ブラック(5%)
- バイザーの塗装色 スカイブルー(100%)
- ヘルメット額部の塗装色 モンザレッド(100%)
- ランドセルの塗装色 ミディアムブルー(100%)

MS-06K ザクキャノン ラビットタイプ 指定色

- 本体などの塗装色 RLMブラックグリーン70(50%)+ホワイト(35%)+デイトナグリーン(15%)+ブラウン(少量)
- 動力パイプなどの塗装色 黒鉄色(100%)
- 額センサーの塗装色 クリアオレンジ(100%)

MS-06K ZAKUCANNON MECHANISM

ザクJ型の汎用性を活かし、対空戦術用に開発された。右肩に180mmキャノン砲を装備。対MS戦も想定し、ビッグガンをオプションで装着も可能である。

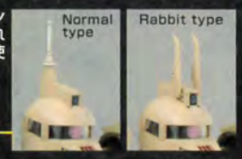


◀▲ ショルダーアーマーは激突時の衝撃を軽減するためにインナーフレームを内蔵。また、サポートアームが可動し、交換時やシールドとの換装時には容易な着脱が可能である。

▲重装備による機動力の低下を補うため、脚部には補助推進器が装備され、接地性の向上、安定を図るためJ型より大型の足部になっている。

MODEL NUMBER : MS-06K
Height :17.7m
Weight : 59.1t
Full weight : 83.2t
Generator output : 976kw
Armor materials : super hard steel alloy

▶指揮官用にはアンテナが2本装備されたラビットタイプが使用されている。



▶アームユニットは人体に近い可動構造が与えられ、あらゆる武装・状況に対応できるよう設計されている。

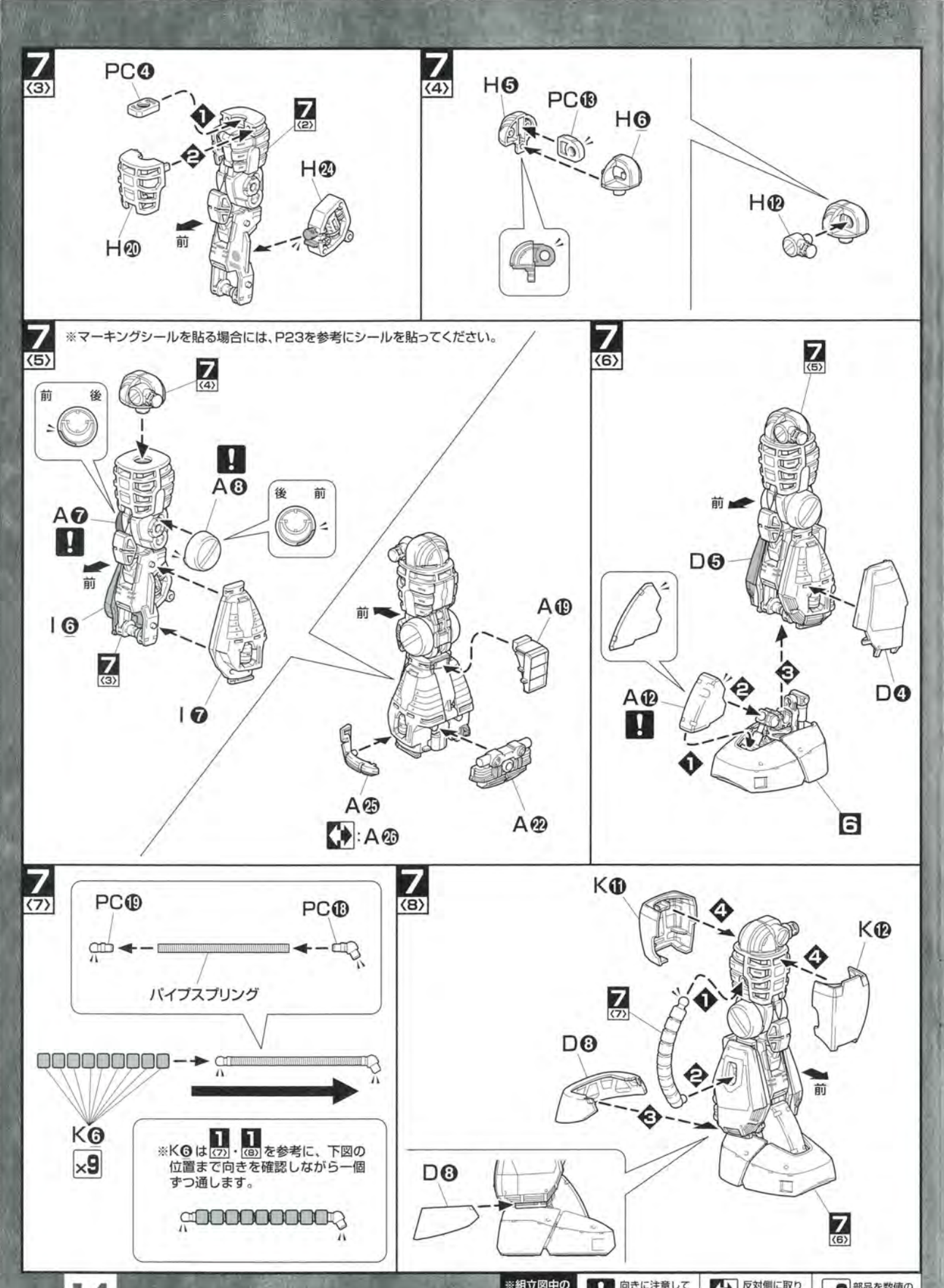
▶ランドセルは180mmキャノンを装備。ノーマルタイプに換装することでJ型と同様の運用ができる。ビッグガンはランドセルにマウントが可能である。

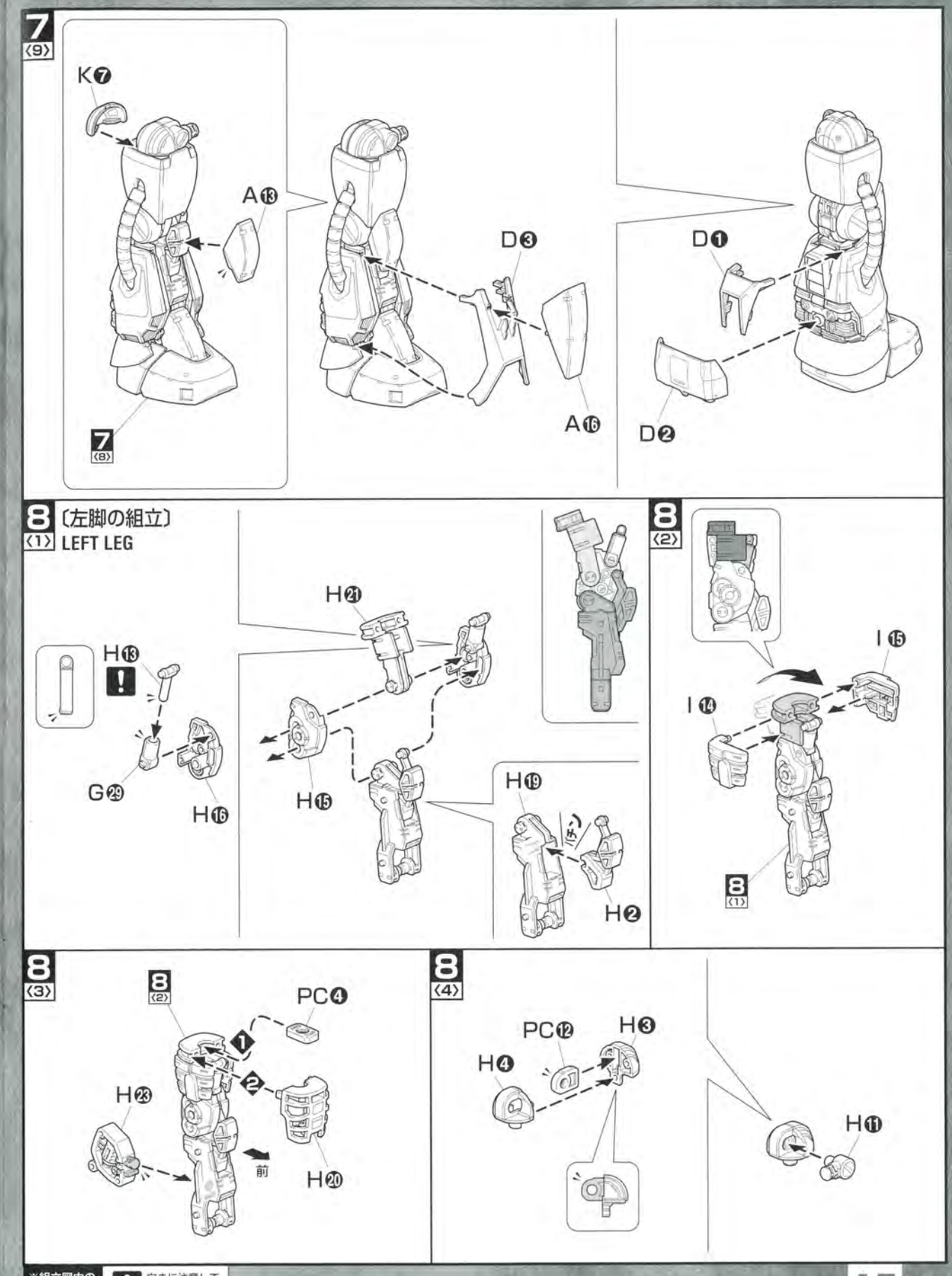
▶モノコック構造とユニット化されたパーツ構成により、汎用性とメンテナンス性に優れた機体となっている。

Weapons

MS-06K ZAKUCANNON Armament

▲ザク・マシンガンのマガジン、ヒート・ホークはそれぞれ本体にマウントが可能。





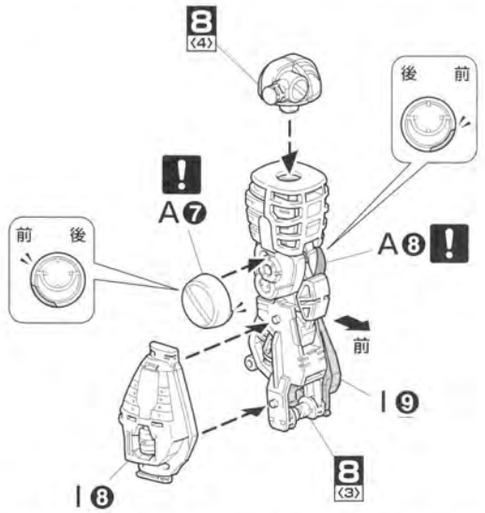
※組立図中の記号説明

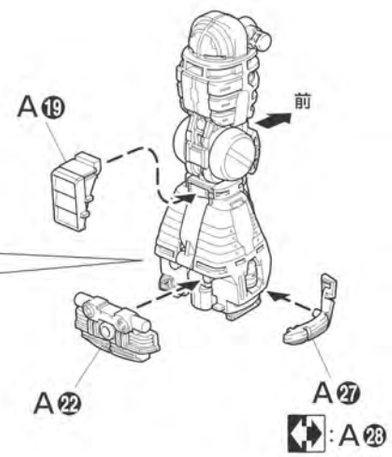
! 向きに注意して組み立てる

反対側に取り付けるパーツ

×9 部品を数値の個数作ります

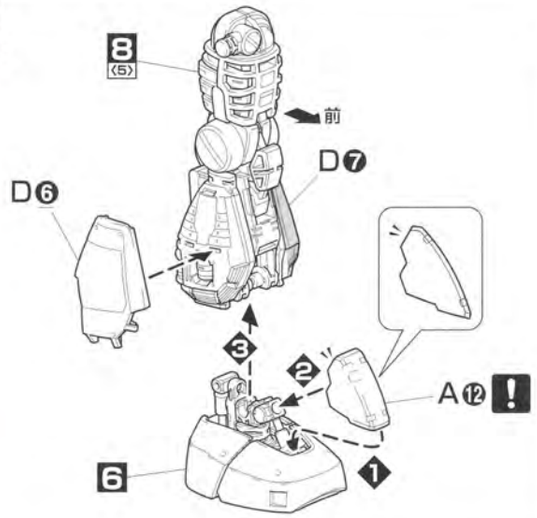
8 〈5〉



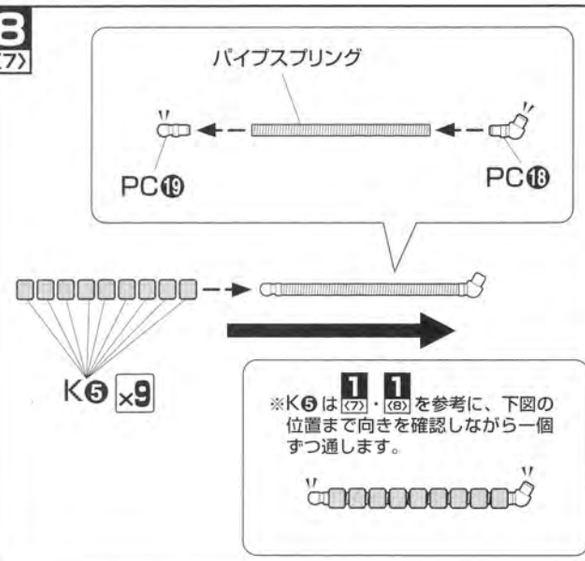


※マーキングシールを貼る場合には、P23を参考にシールを貼ってください。

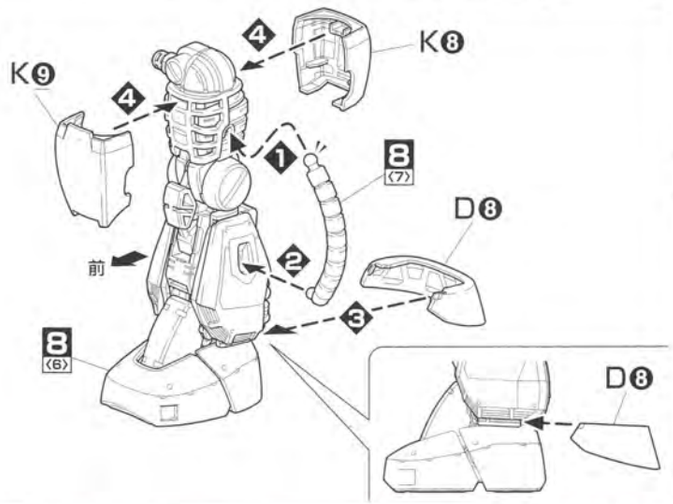
8 〈6〉

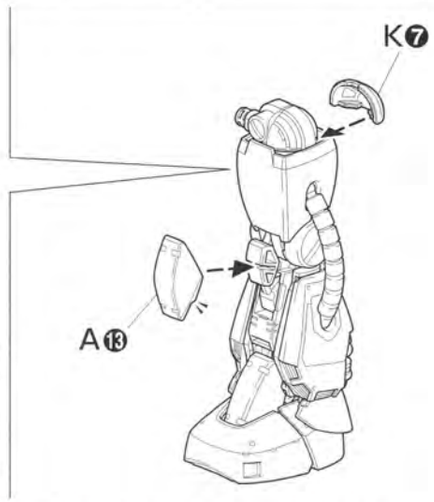


8 〈7〉



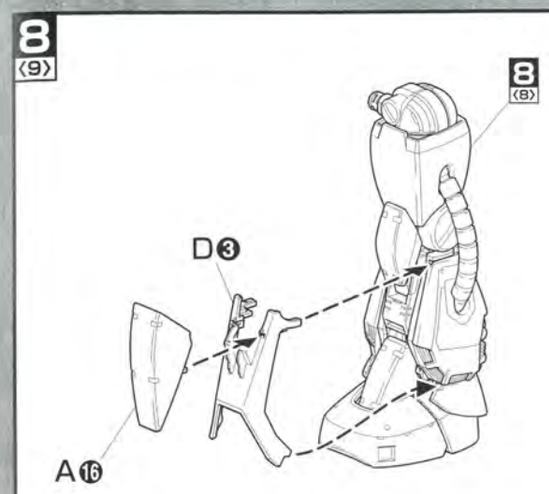
8 〈8〉

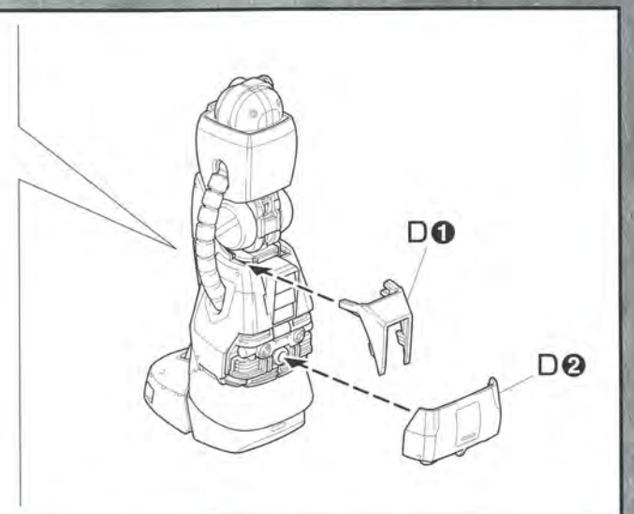




※組立図中の記号説明 ! 向きに注意して組み立てる ×9 部品を数値の個数作ります 反対側に取り付けるパーツ

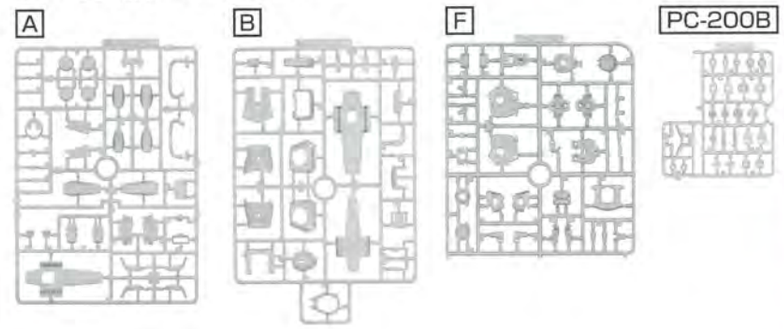
8 〈9〉



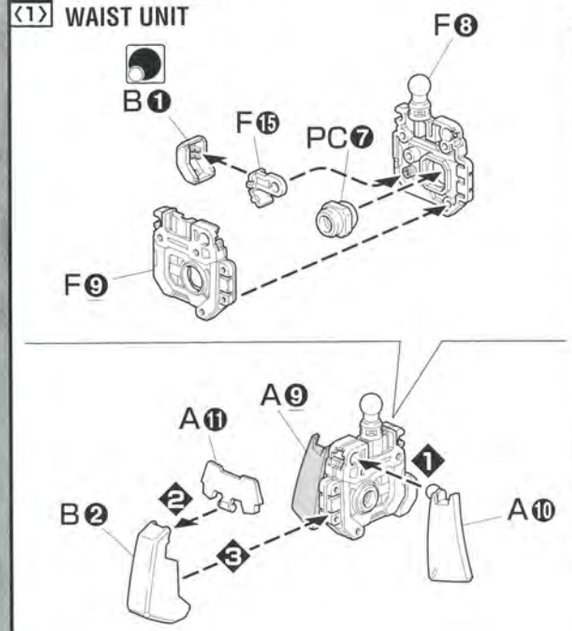


9 10 WAIST UNIT

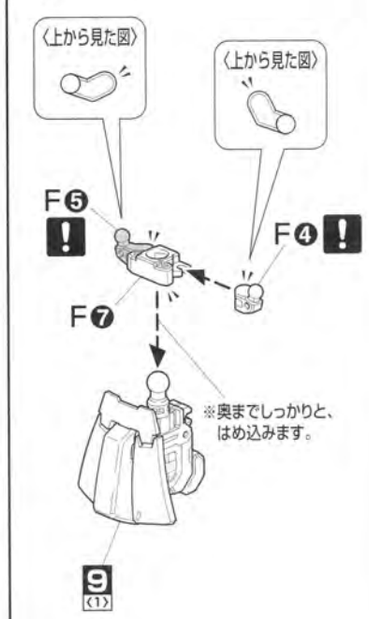
・組立 9・10 で使用するパーツ



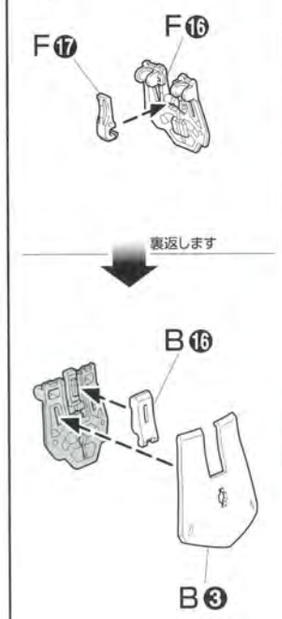
9 〈1〉 〔腰部の組立〕 WAIST UNIT



9 〈2〉

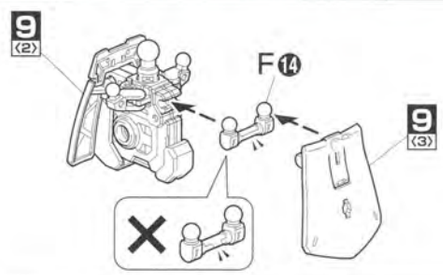


9 〈3〉

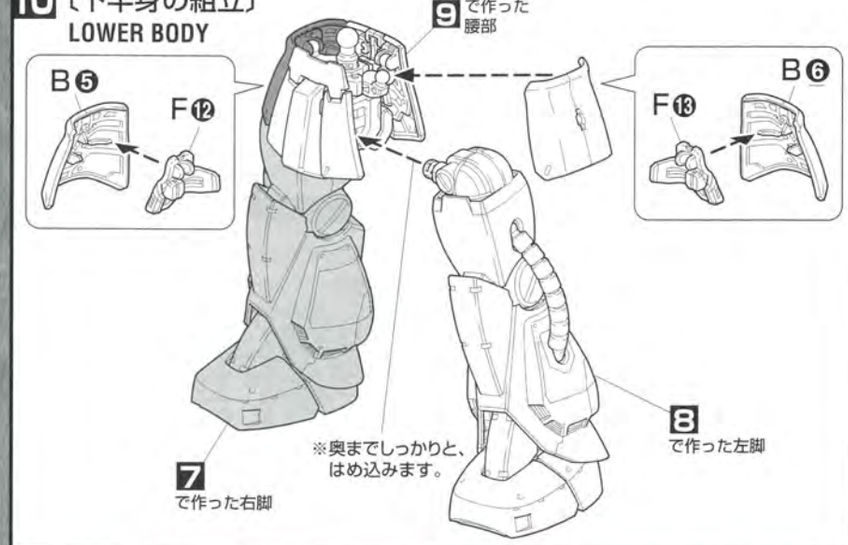


※組立図中の記号説明 ! 向きに注意して組み立てる 後から組み立てる

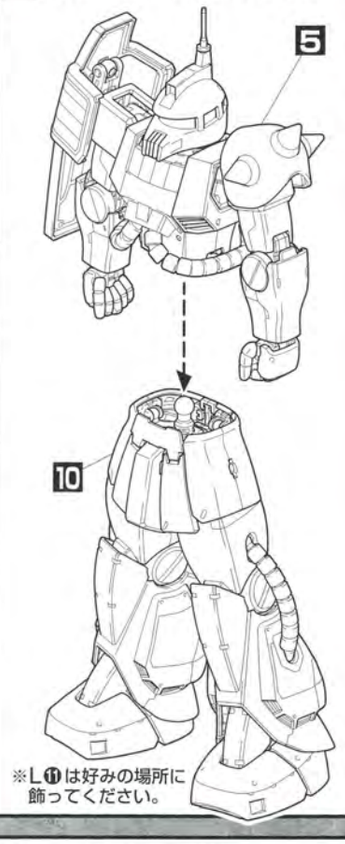
9 〈4〉



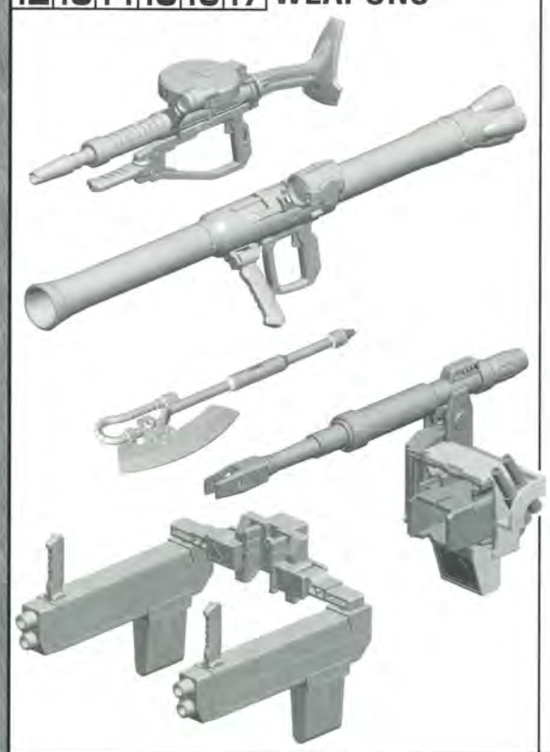
10 〔下半身の組立〕 LOWER BODY



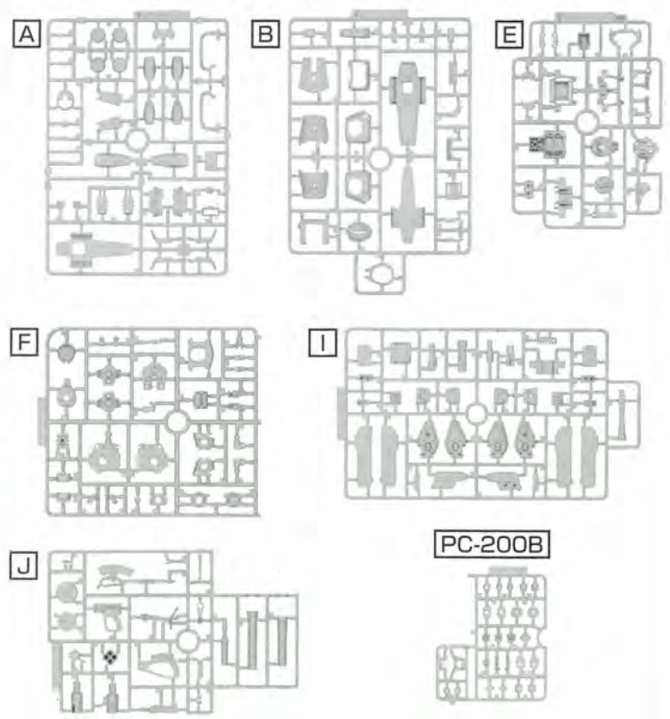
11 〔完成〕 FINAL ASSEMBLE



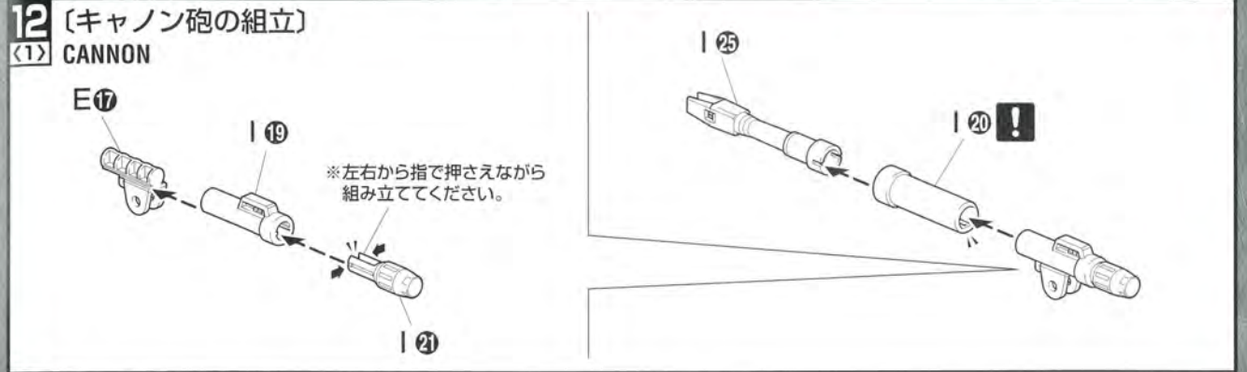
12 13 14 15 16 17 WEAPONS



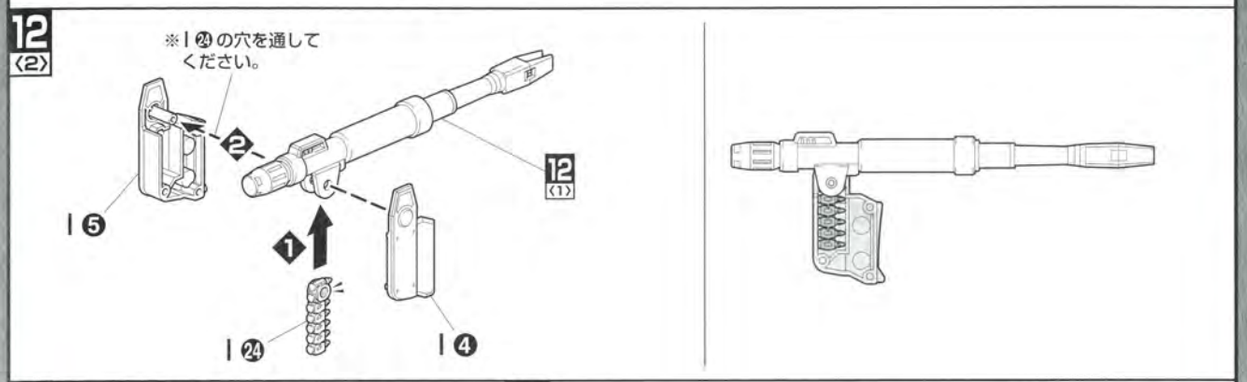
・組立 12・13・14・15・16・17 で使用するパーツ



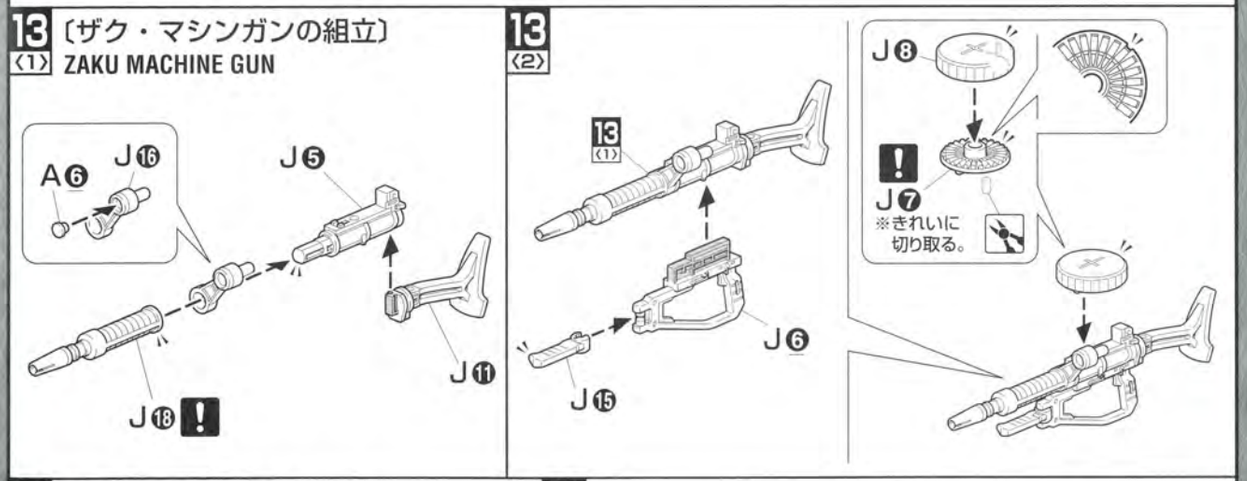
12 〈1〉 〔キャノン砲の組立〕 CANNON



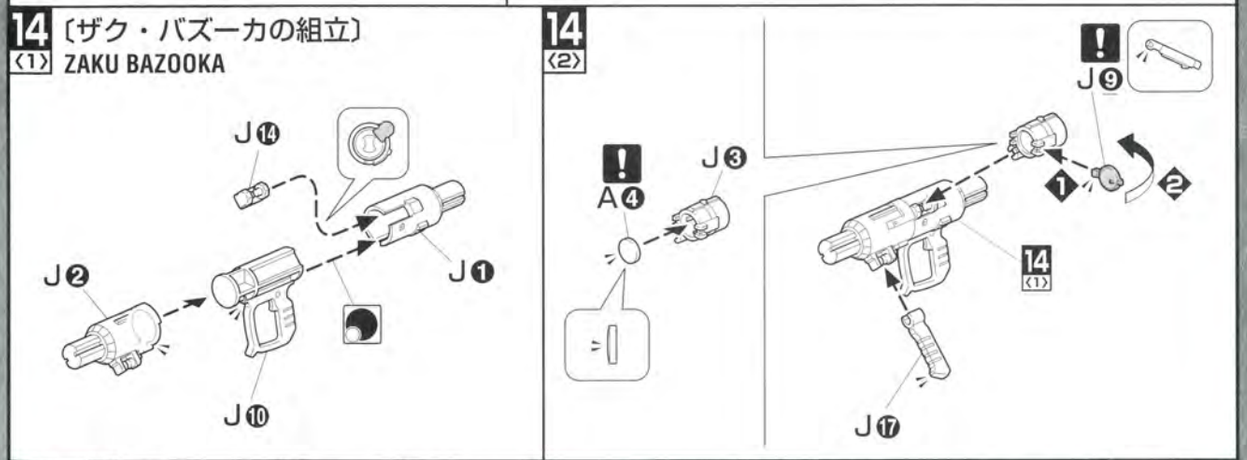
12 〈2〉



13 〈1〉 〔ザク・マシンガンの組立〕 ZAKU MACHINE GUN

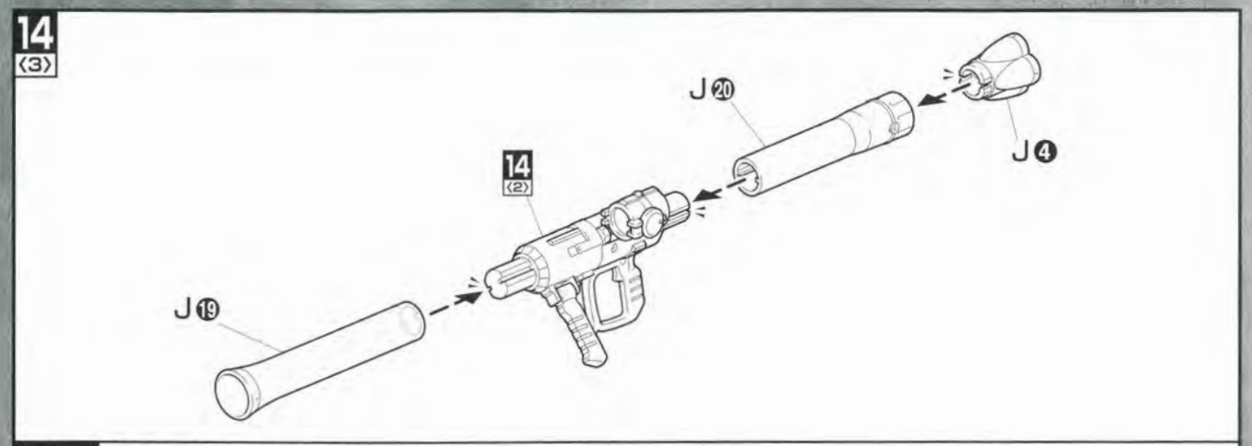


14 〈1〉 〔ザク・バズーカの組立〕 ZAKU BAZOOKA

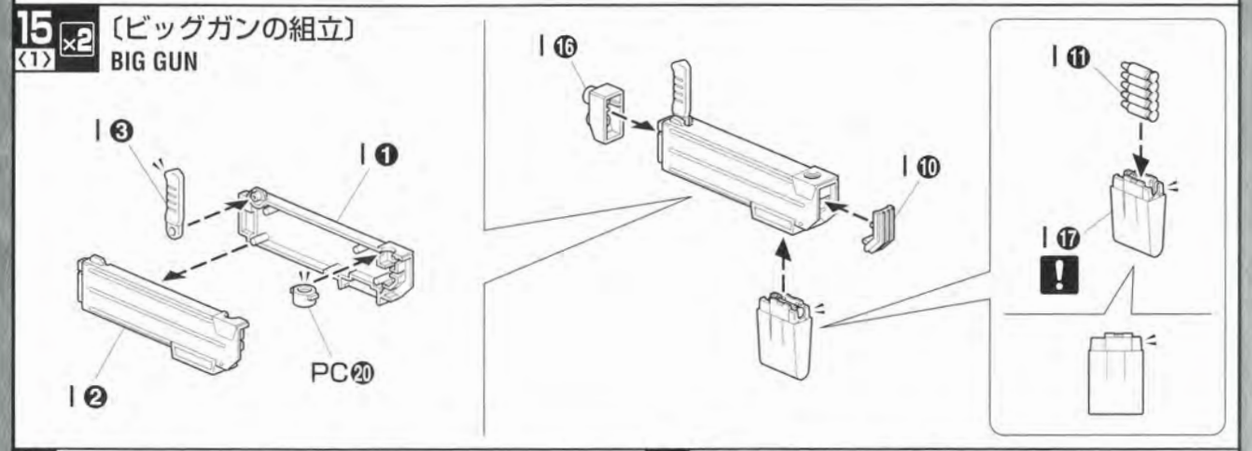


※組立図中の記号説明	! 向きに注意して組み立てる	切り取る部分	後から組み立てる

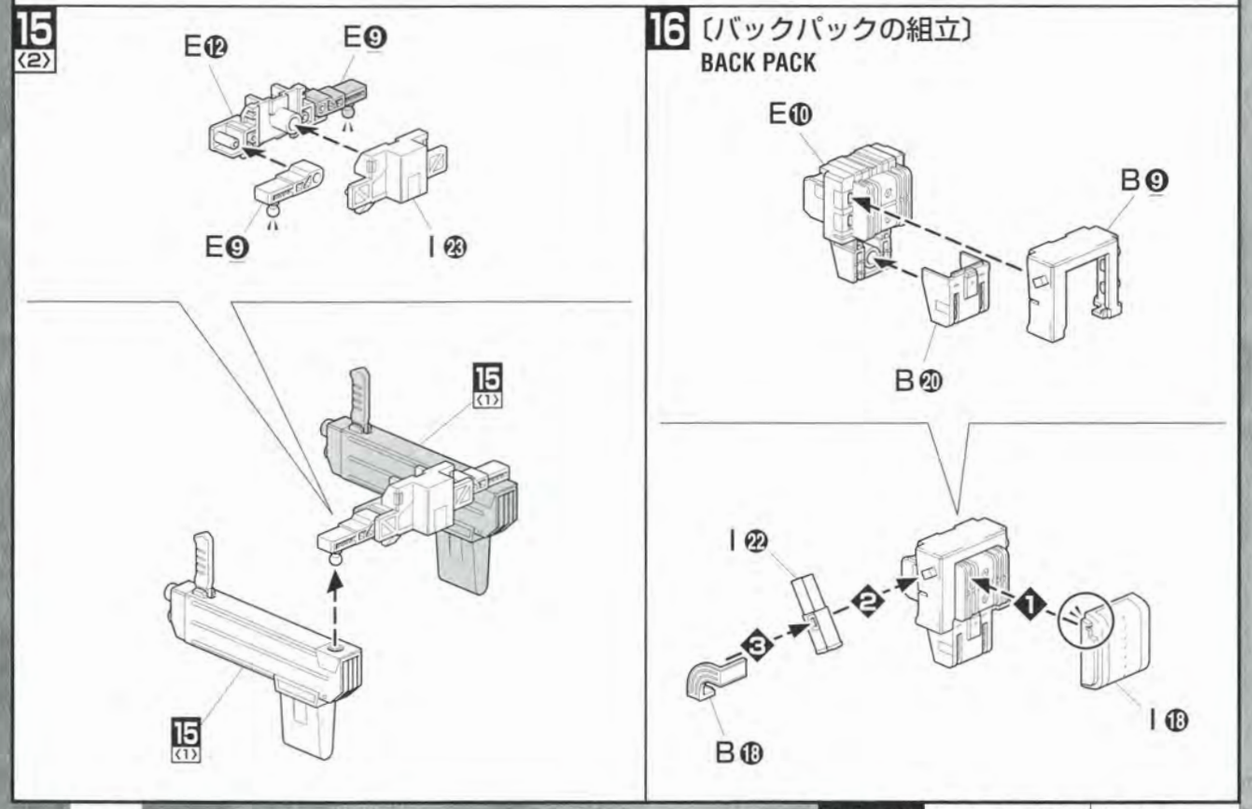
14 〈3〉



15 〈1〉 ×2 〔ビッグガンの組立〕 BIG GUN



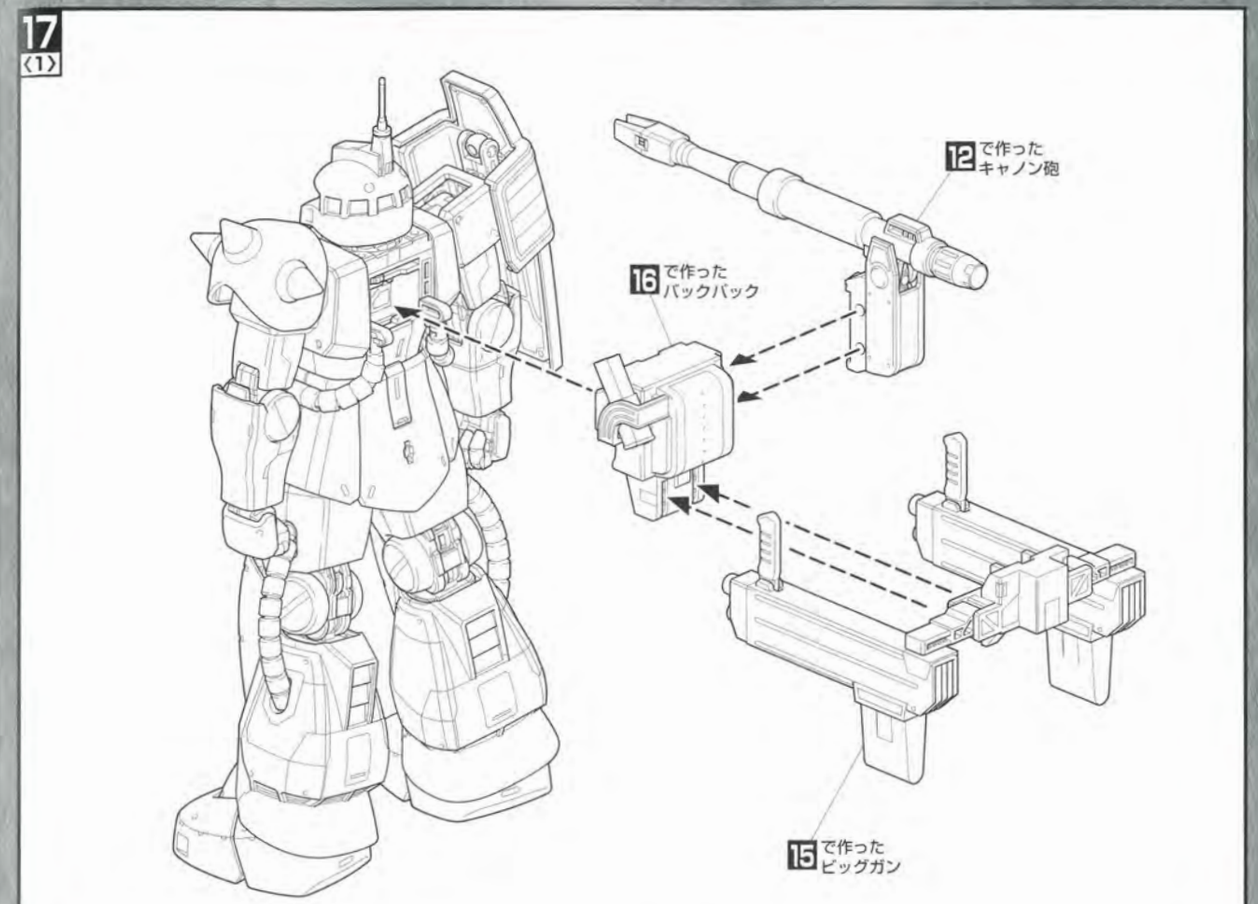
15 〈2〉



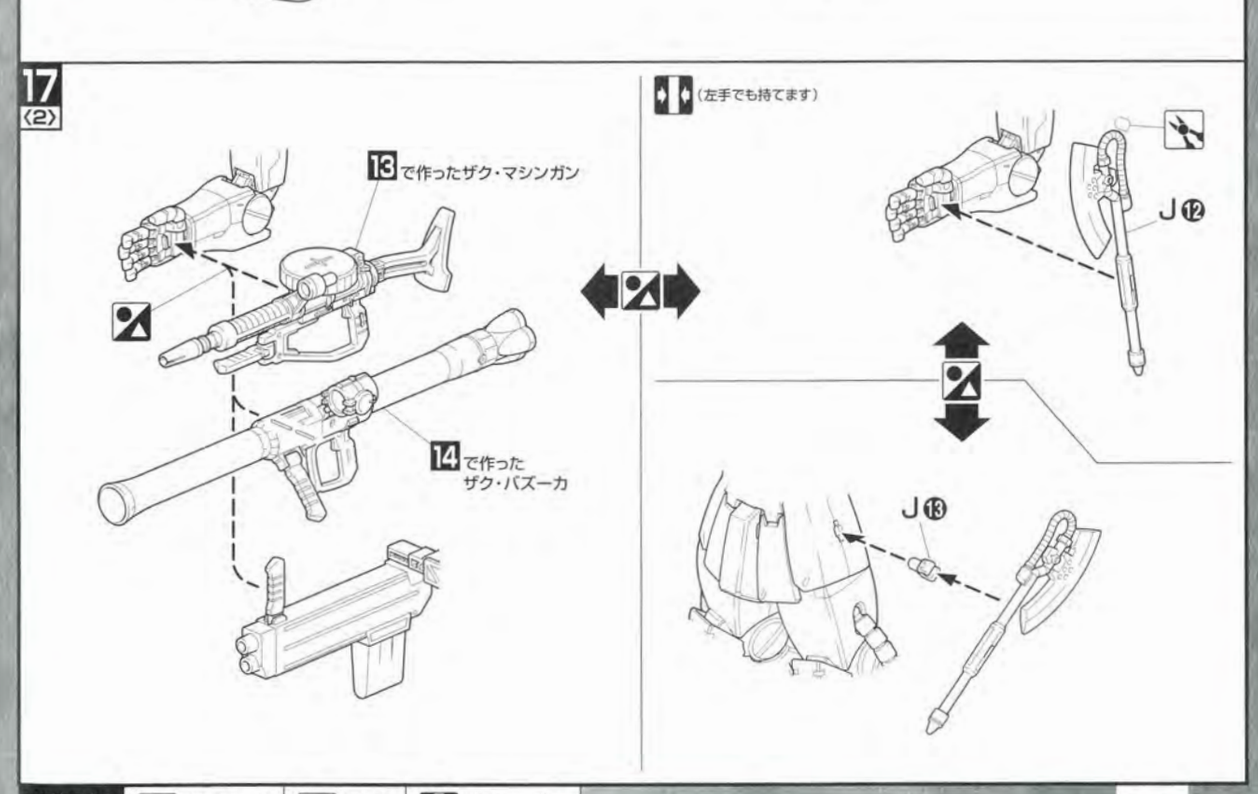
16 〔バックパックの組立〕 BACK PACK

※組立図中の記号説明 ! 向きに注意して組み立てる ×2 部品を数値の個数作ります

17 〈1〉

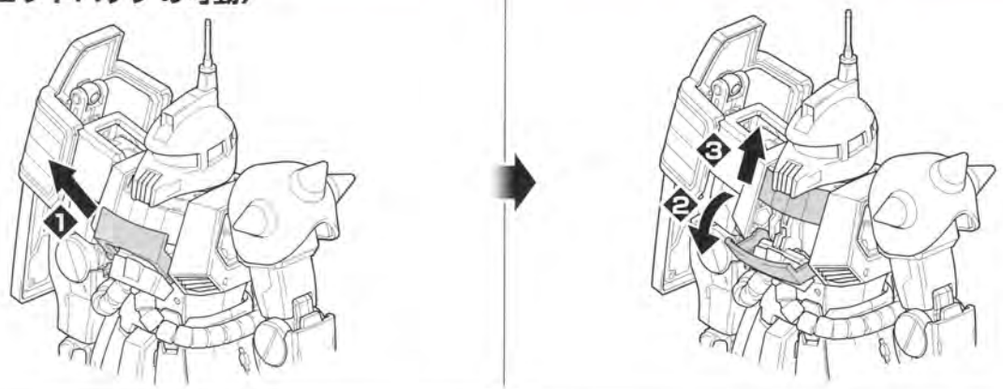


17 〈2〉

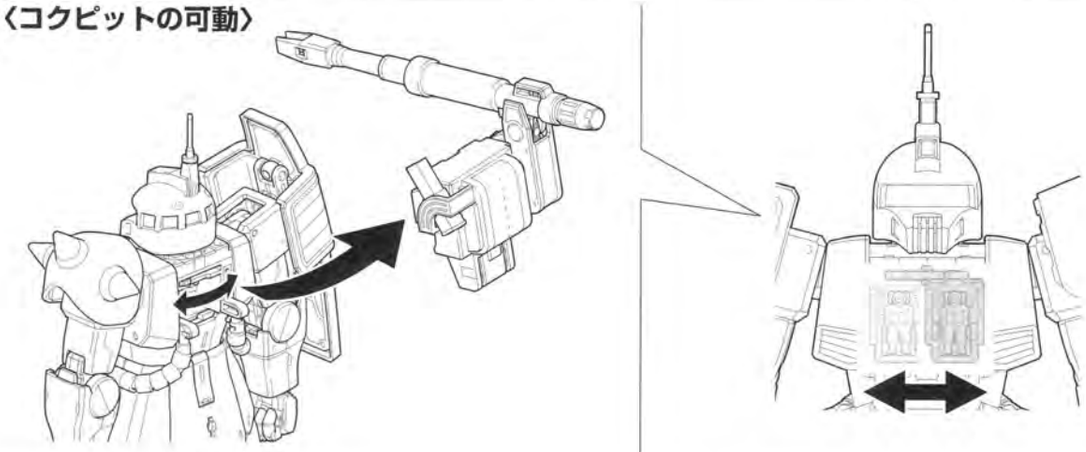


※組立図中の記号説明 どちらかを選んで取りつける 切り取る部分 両側に同じパーツを取りつける

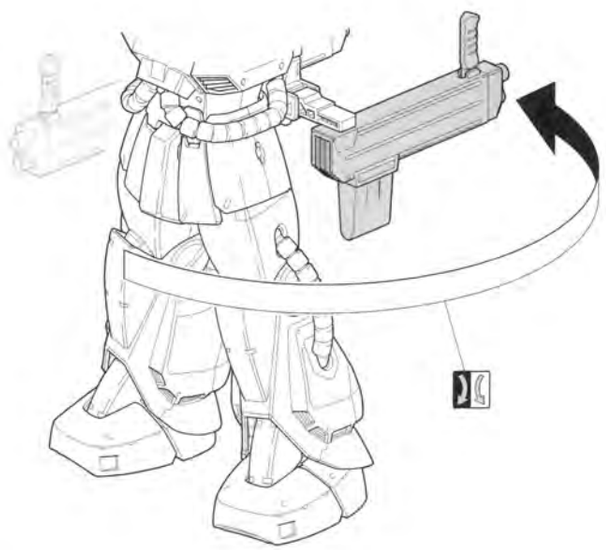
17 〈3〉 〈コクピットハッチの可動〉



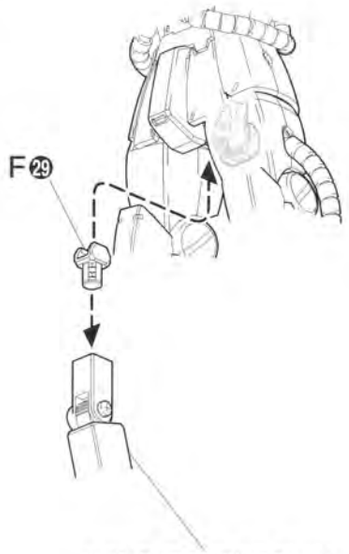
17 〈4〉 〈コクピットの可動〉



17 〈5〉 〈ビッグガンの収納〉



17 〈6〉



※バンダイプラモデルアクションベース1（別売り）を使用してディスプレイできます。

※組立図中の記号説明　両側を同じように動かす

Seal
〈シール〉

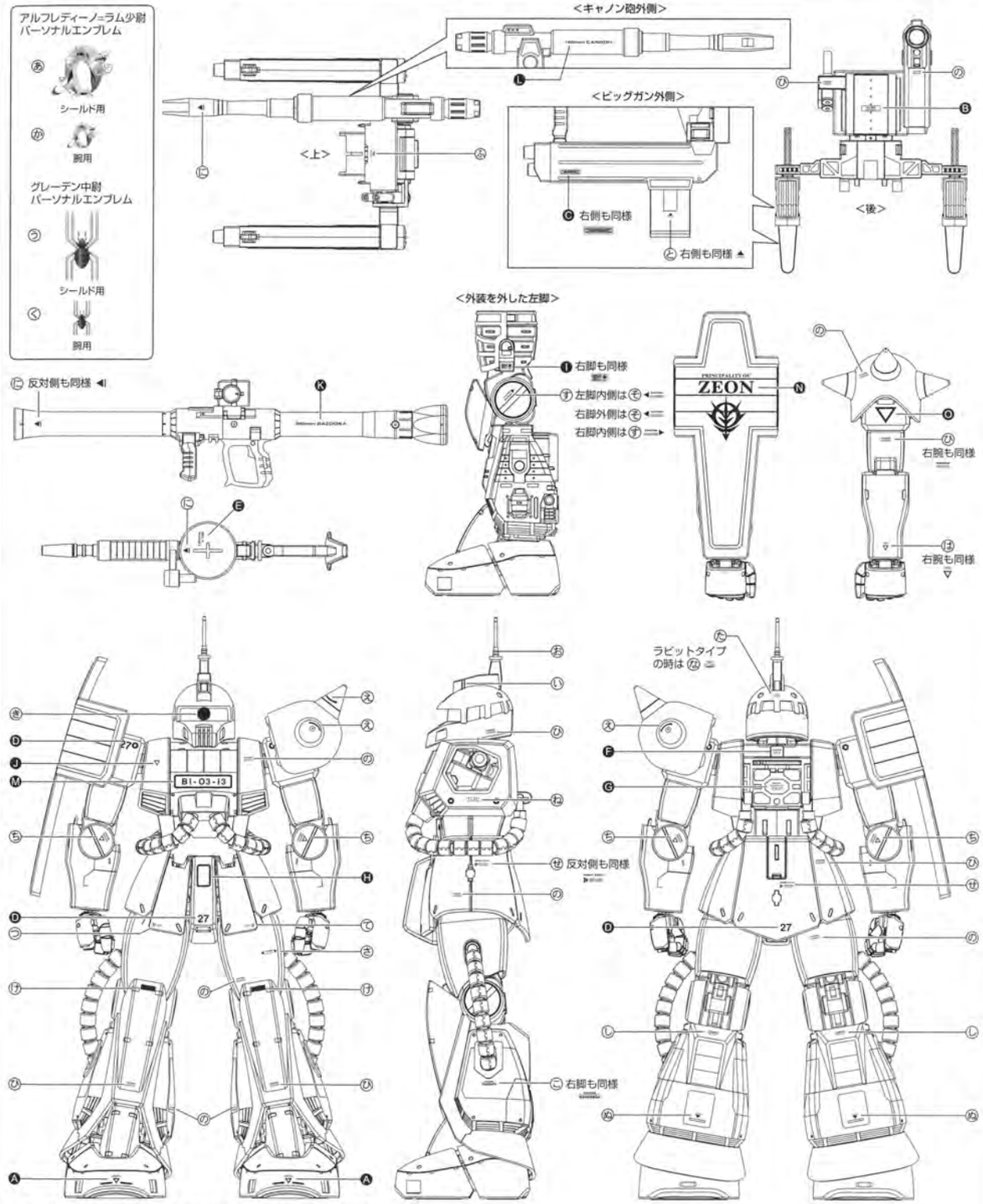
下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。

マーキングシールは「ひらがなの黒文字」、ガンダムデカールは「アルファベットの白文字」で表記してあります。
【例】あ・・・マーキングシール　Ⓐ・・・ガンダムデカール

【ガンダムデカールの貼りかた】

1.転写するマークを大まかに切ります。
2.転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
3.シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。

このマーキングシール及びガンダムデカールはプラモデルオリジナルのものです。貼り指示は一例ですのでイメージに合わせてお貼りください。



※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所に貼って下さい。